

# NOTO TOWN

能登町 | 第三次 | 総合計画





町長あいさつ



# 第 1 編

---

## 序 論

### － 能登町総合計画とは －

- 1 総合計画策定の背景とねらい
- 2 計画の概要
- 3 まちづくりの主要課題

# 1 総合計画策定の背景とねらい

## (1) ともにまちづくりを進めるための「羅針盤」として

能登町では、その時々々の社会情勢を踏まえながら、合併以降2次にわたって「基本構想」を策定してきました。その間には、新型コロナウイルスの流行や令和6年1月1日に発生した能登半島地震、その8カ月後の9月21日から23日にかけて発生した奥能登豪雨などにより、本町を取り巻く環境は急速に大きく変化しています。

また近年では、物やサービスの充実だけでなく、生活の質、心の豊かさが重視され、成熟社会における行政のあり方が問われています。

これからも進行する少子高齢化、人口減少などの人口動態の変化等を踏まえたうえで、大規模災害からの創造的復興に向けて、行政だけでなく、町民・事業者等を含めたまちづくりにかかわる「わたしたち」主体者の「羅針盤」となるよう総合計画を策定します。

## (2) 「つくる」から「つかう」総合計画へ

大規模災害の復旧から復興へ、またその過程においても多様化する町民ニーズや変化の激しい社会経済情勢において、わたしたちの目的地である「ありたいまちの姿」に向かって着実にまちづくりを進めるためには、従来の考えや手法に捉われたまま流れに身を任せるのではなく、時代の潮流を捉え、その変化に対応するために、総合計画という羅針盤をしっかりと活用し、進行方向を確認しながら、必要に応じて舵を切りなおすことが重要です。

そのため、第3次総合計画に基づくまちづくりを推進するに当たっては、これまでの反省を踏まえ施策評価を中心としたPDCAサイクルを構築し、取組の成果と課題を確認しながら、わたしたちがめざす「ありたいまちの姿」に向かって、施策や事業の展開とその評価・改善の進行管理を行っていきます。

## (3) 多様な主体とともにまちづくりを「具体化」する

二度にわたる大規模災害によって、尊い人命が失われ、町民の生活基盤や能登の里山里海に代表される自然環境、それらを背景にした生業、地域文化等も深い傷を負いました。

能登町では、これまで平時においても協働のまちづくりを推進してきましたが、復旧から復興に向けては、より一層のパートナーシップによるまちづくりの推進が必要です。行政だけでなく、町民や事業者、国・県などの関係機関、更には町外の関係人口等、多様な主体が「わたしごと」として、それぞれの力を発揮できるよう、町としての役割を明確にします。

#### **（４）里山里海に育まれた「能登町ブランド」の確立**

---

「里山里海」に育まれた能登の暮らしには、農林水産業等の生業、食、祭礼をはじめとする伝統文化等があり、これは世界に誇れるものです。能登町復興計画において、これらを次世代に受け継ぐことができる未来をつくっていくために、関係人口（外部人材、企業）等と連携し、本町のブランドを一層高める「創造的復興」が位置づけられています。

総合計画においても、豊かな里山里海を背景とした「祭り」、「暮らし」、「生業（なりわい）」を能登町ブランド資産として確立し、地域の持続可能な発展を支えるため、特に優先的に注力すべき分野や活動として支援や推進をしていきます。

#### **（５）復興計画との整合を図り、総合戦略・教育振興計画等の一体的推進**

---

能登町においても人口減少、少子化・高齢化などの課題の克服に向けて地方版総合戦略の推進を図ってきました。しかしながら、通常であれば10年後にやってくると考えられていた人口減少や少子化・高齢化に係る諸課題が、震災によって一気に顕在化しています。そこで、今後の復興まちづくりにおける基本的な方針と取り組みの方向性を示した「復興計画」との整合を図りつつ、地方創生、持続可能なまちづくりに向けた重点的な施策を示す「能登町総合戦略」と、学校教育、生涯学習において能登町が目指す基本的な方向性や具体的な施策等教育について示した「能登町教育振興計画」、激甚化・頻発化する自然災害等に備え、震災の教訓を生かした、強くてしなやかな地域づくりに向けた施策を示した「能登町国土強靱化地域計画」を一体的に策定し、創造的復興にむけて効率的かつ効果的な施策の推進を図ります。

また、本町における人口の将来展望である「能登町人口ビジョン」は超長期の将来推計であるため、震災や社会経済情勢の変化により大きく変動が見込まれる場合など、必要に応じて見直しを行っていきます。

## 2 計画の概要

### (1) 計画の趣旨

能登町は、平成 17 年 3 月に能都町、柳田村、内浦町の 3 町村が合併し、本町として最初の総合計画「能登町第 1 次総合計画」（以下、第 1 次計画という。）を策定し、平成 18 年度から「奥能登にひと・くらしが輝く ふれあいのまち～協働と循環により躍進するまちづくり～」を将来像に掲げ、「一歩前へ進むまちづくり」を基本目標に、その実現に向けまちづくりを推進してきました。その後、東日本大震災、世界農業遺産への登録、北陸新幹線の開業等、社会経済情勢の大きな変化等を踏まえ、第 1 次計画を引き継ぐ形で平成 28 年度を初年度とする「能登町第 2 次総合計画」（以下、第 2 次計画という。）を策定しました。第 2 次計画では、「人をつなぎ、地域をつなぎ、未来へつなぐまちづくり～人づくりが礎となる 未来への虹の架け橋づくり～」を基本目標に、人口減少対策や地方創生を横断分野として、地域課題解決の活動交流拠点「NOTO CROSS PORT」の開設や能登高校魅力化プロジェクトなど、未来の能登町を担う人づくりを進めてきました。

こうした中、新型コロナウイルス感染症の蔓延は、社会を一変させ、私たちの日常生活や働き方といった様々な場面で変化しており「アフターコロナ」への対応が求められます。加えて、令和 6 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震、その 8 カ月後に発生した奥能登豪雨は、本町に大きな傷跡を残し、今もなお多くの町民が今後の生活に対する悩みや不安を抱えている状況です。

発災から 1 年が経過し、町民をはじめ関係機関が一丸となり取り組むことで、社会インフラ基盤の復旧は着実に進んでいますが、被災者の心身の回復や生活再建、持続可能な地域コミュニティの形成、被災した里山里海の再生などには更に長い年月が必要となります。

加えて、加速した人口減少や AI（人工知能）、DX（デジタル・トランスフォーメーション）の進展、更には SDGs による「誰一人取り残さない社会の実現」、「ウェルビーイング」といった考え方等、これからのまちづくりには新たな観点を取り入れることにより、地域の価値を高め、町民の幸福度を向上させる創造的復興が重要です。

このような困難な状況を克服し、「復旧から復興への道」を町民とともに歩みだすため、令和 8 年度を初年度とする「第 3 次能登町総合計画」（以下、本計画という。）を策定するものです。

## (2) 計画の構成と計画期間

本計画は、町政の最上位計画として、本町が目指すべき姿やその実現に向けて取り組むべき施策を体系的に示すとともに、分野ごとに策定する個別計画に方向性を与えるものです。

### ① 計画の構成

まちづくりの基本となる長期的展望を示す「基本構想」、基本構想を実現するための「基本計画」、毎年度の予算編成の指針となる「実施計画」の三層をもって構成します。

策定にあたっては、能登半島地震、奥能登豪雨といった大きな変化などを考慮し、復興まちづくりに向けた指針となる復興計画との整合を十分に図って計画しています。また、「第3期能登町創生総合戦略」（以下、「総合戦略」という。）及び「能登町強靱化計画」（以下、「強靱化計画」という。）、「第3期能登町教育振興計画」を、総合計画を構成する計画として一体的に策定します。

#### I) 基本構想

基本構想は、町の将来像と、これを実現するための政策の基本的な方向を示すものです。計画期間は、令和8年度を初年度とし、令和17年度までの10年間とします。第3次計画の策定にあたっては、これまでの考え方を継承・発展するとともに、能登半島地震・奥能登豪雨の影響や社会情勢の変化への対応するものとします。

#### II) 前期基本計画

基本計画は、基本構想や目標数値の達成に向けて、具体的な施策を分野別に体系化し、その方針を明確化します。本計画では、10年間の基本構想の前半（令和8年度～12年度）の施策を、前期基本計画として体系化してまとめています（後期基本計画は、令和13年度～17年度を想定）。

前期基本計画では、次の3つの計画を一体化させています。前期基本計画はこれらの各計画で定めるビジョンの実現を目指すものであると同時に、各計画の計画期間は、前期基本計画に準じるものとします。

##### i) 重点プロジェクト／戦略的施策（第3期能登町創生総合戦略）

能登半島地震・奥能登豪雨により加速した人口減少に対して、これまでの地方創生の取り組みを検証するとともに、持続可能な開発目標（SDGs）やSociety5.0、関係人口の創出などの新しい時代の流れを取り込むことで、持続可能なまちづくりに向けた戦略と重点的な施策を示します。

##### ii) 第3期能登町教育振興計画

学校教育や社会教育、社会体育に関する施策や事業を対象とした教育行政の重要な柱となる計画です。本町の教育が目指す基本的な理念と目標を明確にして、その実現に必要な施策や事業を示しています。

### **iii) 能登町国土強靱化地域計画**

激甚化・頻発化する自然災害等に備え、震災の教訓を生かした、強くてしなやかな地域づくりに向けて、防災力・減災力を高めるための施策を示します。

## **III) 実施計画**

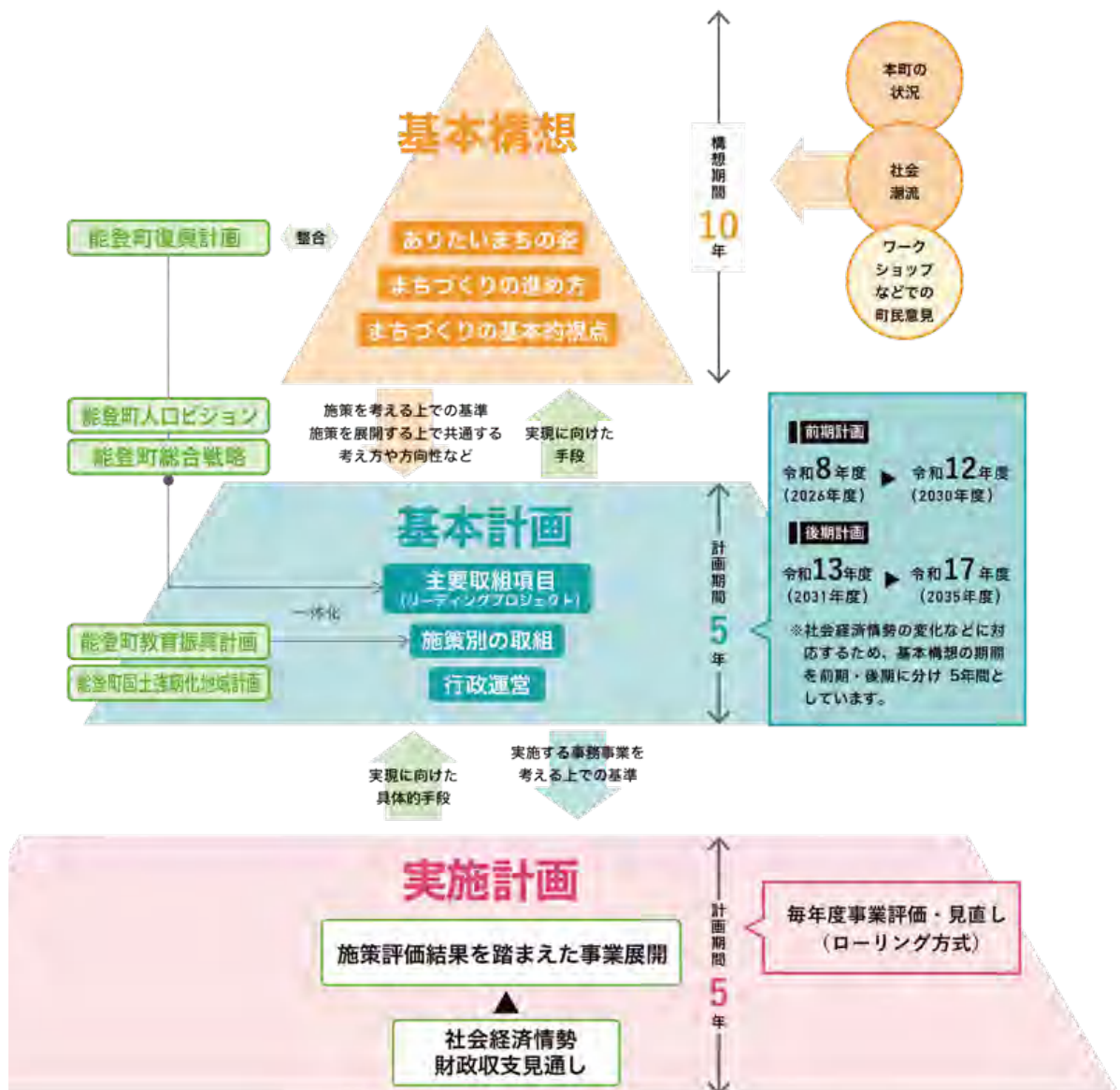
実施計画は、基本計画で体系化した各施策の実施年度や事業量、実施方法などを具体化した事業を示し、各年度の予算編成の指針となります。計画期間は、5年を1期とし、毎年度見直しを行います。（ローリング方式）

## ②計画の期間

変化が激しい時代においても、ともにまちづくりを進めていくための、中長期的なまちづくりビジョン（将来像）として、まちづくり構想はその期間を10年間としています。

「まちづくりビジョン」の実現に向けた取組の方向性を示す基本計画は、取組の狙いや効果を検証しやすくし、ある程度の期間で見直しができるよう、前期・後期ともにその期間を5年間としています。

### 《総合計画の構成》



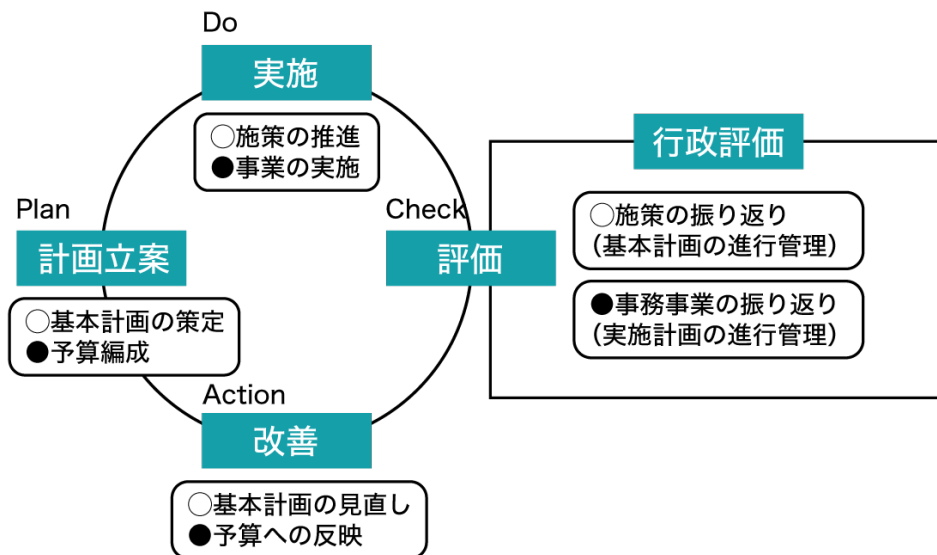
### (3) 計画の進行管理

総合計画を実効性のあるものにするため、Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Action（改善）の4段階を繰り返す、いわゆる「PDCA サイクル」による進行管理を行います。

Check（評価）→ Action（改善）の段階は、本計画の施策に対する評価を5年毎に、その下の実施計画の事務事業に対する評価を毎年度行い、より効果的・効率的な推進が図られるよう、計画期間中であっても随時、見直し・改善を行っていきます。

また、本計画に掲げる「将来像」を実現するためには、行政だけでなく、町民や事業者、関係人口など、様々な主体の参画が不可欠です。そのため、各主体がそれぞれの役割のもとに、連携・協力して取り組む必要があります。

図表 PDCA サイクル



## **(4) 各主体の役割**

---

### **①町の役割**

町は、本計画に掲げる「将来像」を実現するための施策や事業を推進します。職員は、本計画を理解した上で、自分の業務がどのようにその実現に貢献できるかを考えながら、日々の業務を遂行していくことが必要です。さらには、町民や事業者などに対して、積極的に情報発信を行い、多様な主体との対話を行うことで、協働できる体制を構築することが求められます。

### **②町民の役割**

町民一人ひとりには、能登町に暮らす一員として、自身や能登町の未来に向かって活動していくことが求められます。そのためには、自身や能登町の未来について、家族や友人、地域の仲間などと話し合い、その実現のために、行政、地域住民、町会・自治会等の関係団体とともに連携して、行動することが望まれます。

### **③事業者の役割**

事業者は、自らの活動が町民の暮らしを支える一員として、様々な活動を通じて、地域社会に貢献していくことが期待されています。そのためには、事業活動はもちろんのこと、地域資源を活かした活動や、その地域資源の魅力を高める活動などを行政や町民、他の事業者などの様々な関係者と連携して、行動することが望まれます。

### **④関係人口の役割**

人口減少社会の到来や大規模災害からの復旧・復興など、能登町内の主体のみで、地域活力の維持や賑わいを創出していくことが困難なことから、関係人口も能登町に活力や賑わいを生み出す一員として、本町に対し愛着を持ち、町内外の人々となつがり連携して、ともに地域づくりを行うことが望まれます。

### 3 まちづくりの主要課題

#### (1) 能登町を取り巻く社会潮流

## 1 能登半島地震、奥能登豪雨からの復旧・復興

能登町に甚大な被害をもたらした能登半島地震、奥能登豪雨の発生以降、現在も復旧・復興に取り組んでいます。

今後も、一人ひとりに寄り添った継続的な生活再建支援や心のケアが求められるほか、創造的復興に向けて大きな課題となる人材（担い手）及び資金不足に対応するため、地域外からヒト・モノ・カネの投資を呼び込む仕組みづくりが求められます。

また、能登町の里山里海がもたらす豊かな恵みを背景にした、「暮らし」、「生業」、「祭り」につながる「暮らしの循環」の復興を通して修復し、再構築していく必要があります。

## 2 超高齢・人口減少対策と地方創生 2.0 の推進

国は人口減少を正面から受け止めたうえで、更なる地方創生の推進に向けて、若者・女性にも選ばれる楽しい地方、高齢者も含め誰もが安心して住み続けられる地方などを重要視した基本構想を新たに策定しました。

能登町においても現在の人口増加を前提とした社会システムの見直しが必要となっており、公共施設をはじめとする施設は、機能の集約や統廃合によるスリム化を図ることが求められています。

## 3 先端技術の活用及び人材育成

国は、IoT、ロボット、AI といった先端技術があらゆる産業や社会生活に取り入れられた、誰もが快適で活力に満ちた質の高い生活を送ることができる

「Society5.0」の実現を目指しています。

人口減少・少子高齢化が進行する中であっても、産業・経済の活性化や労働力不足への対応などの課題解決や持続可能な社会を実現するため、先端技術の開発やDX、GX（グリーントランスフォーメーション）の取組を進める必要があります。

## 4 持続可能な開発目標（SDGs）の推進

平成 27 年（2015）9 月に開催された国連サミットで、令和 12 年（2030 年）までの長期的な開発の指針として、17 の国際目標・169 のターゲットから構成される「持続可能な開発目標（SDGs）」が定められました。我が国においても、8 つの優先課題と具体的施策が定められ、本町においてもまちづくりと、SDGs の達成を一体的に推進することが求められています。

## 5 人生 100 年時代の到来

今後、我が国では高齢化が更に進み、「人生 100 年時代」を迎えることが予測されており、そのような長寿社会において、いつでも学び直し・働き直しができる社会が目指されています。

また、個人の価値観やライフスタイルが多様化する中で、人々は心の豊かさや生活の質の向上を求める傾向が強まっています。生涯にわたって、一人ひとりが価値観やライフスタイルに応じた多様な働き方や暮らし方を選択することができ、個性と能力を十分に発揮できる環境が必要です。

## 6 協働のまちづくりと行財政運営

豊かな地域社会の形成と地域課題の解決のためには、住民自治の推進や、町民と行政の協働の取り組みが求められます。また、町民のニーズが多様化する一方で、財政状況が厳しさを増していることから、ふるさと納税やクラウドファンディング等、資金調達の仕組みを多様化させる必要があります。

また、今後も健全な行政運営を維持していくために、民間活力の導入、職員配置の適正管理と継続的な能力開発、各種補助制度の有効活用、及び経常経費の削減などに努めながら行財政運営を進めることが求められます。

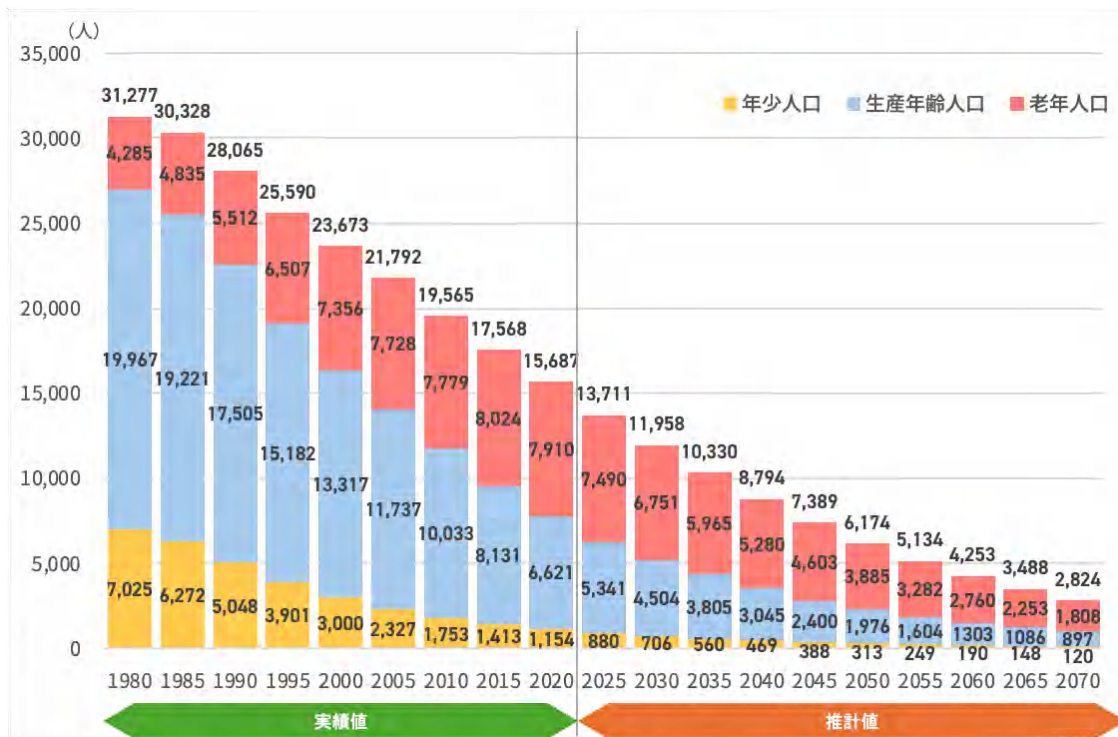
## （２）能登町の特性と課題

### ①止まらない人口減少

能登町の人口は、平成 17 年（2005 年）の合併以前から人口減少が進んでおり、合併時の平成 17 年と令和 2 年（2020 年）を比較すると約 6,100 人が減少しています。（合併時の約 7 割まで減少）

特に年少人口や生産年齢人口の減少が進んでいることから、年齢構成のバランスが大きく偏り、労働力の減少に伴う経済活動の停滞や、担い手不足による地域活力の低下、税収入の減少や社会保障費の増大など、経済、生活、財政等のさまざまな場面で影響が懸念されます。また、能登半島地震、奥能登豪雨の影響を考慮すると、加速度的に人口減少の流れが顕著になることが予想されます。

図表 本町の人口推移と国による将来人口推計



※2020 年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2025 年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（令和 6 年 6 月版）に基づく推計値。

※能登半島地震、奥能登豪雨の影響は考慮されていません。

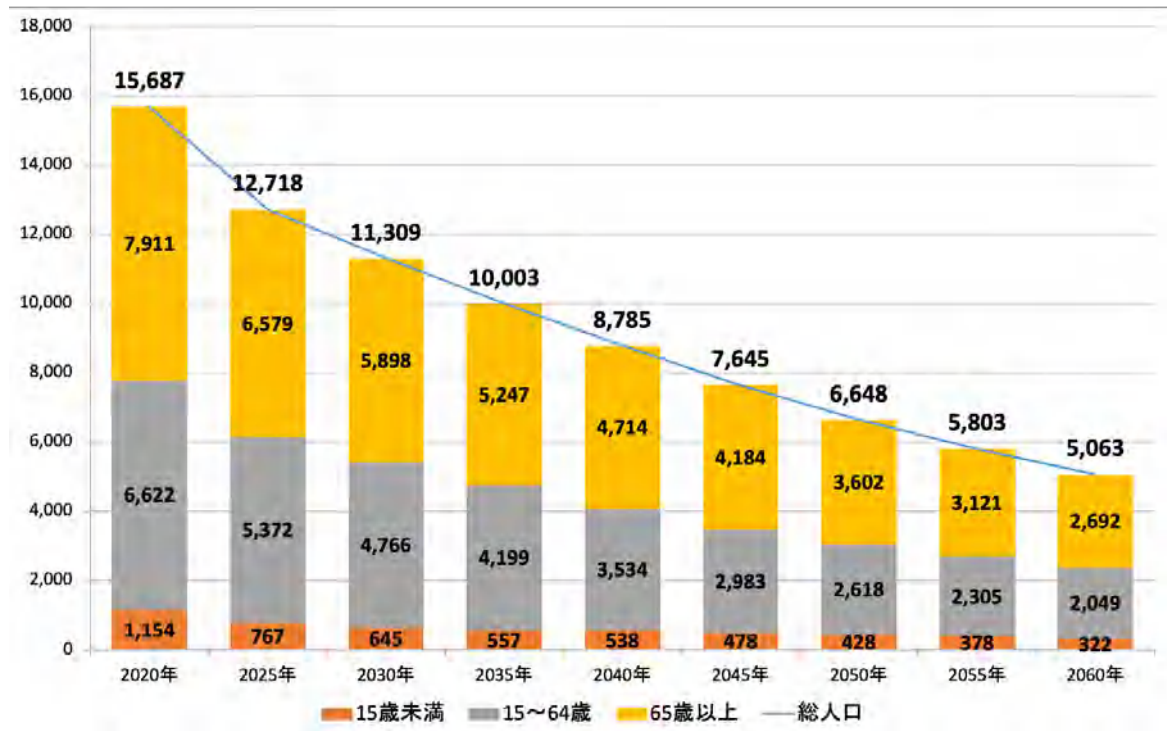
## ②目標人口は令和 17（2035）年で人口約 10,000 人

今後の人口見通し（人口フレーム）については、独自推計による将来人口推計では、令和 7（2025）年で 12,718 人となっており、国の将来人口推計よりも-993 人と被災後により人口減少が進んでいます。今後も人口は一貫して減少を続け、令和 17（2035）年には、10,003 人、令和 42 年（2060）年には 5,063 人となる見通しです。

年齢別 3 区分別人口は、令和 17（2035）年時点で年少人口が 557 人（6%）、生産年齢人口が 4,199（42%）、老年人口が 5,247（52%）となる見通しです。

人口減少の抑制には、合計特殊出生率と純移動率（人口に対する転入・転出の割合）の改善が重要ですが、能登町においては、特に 20 代～40 代女性の転出の抑制、転入の促進が必要です。

図表 本町による人口推移（町独自推計）



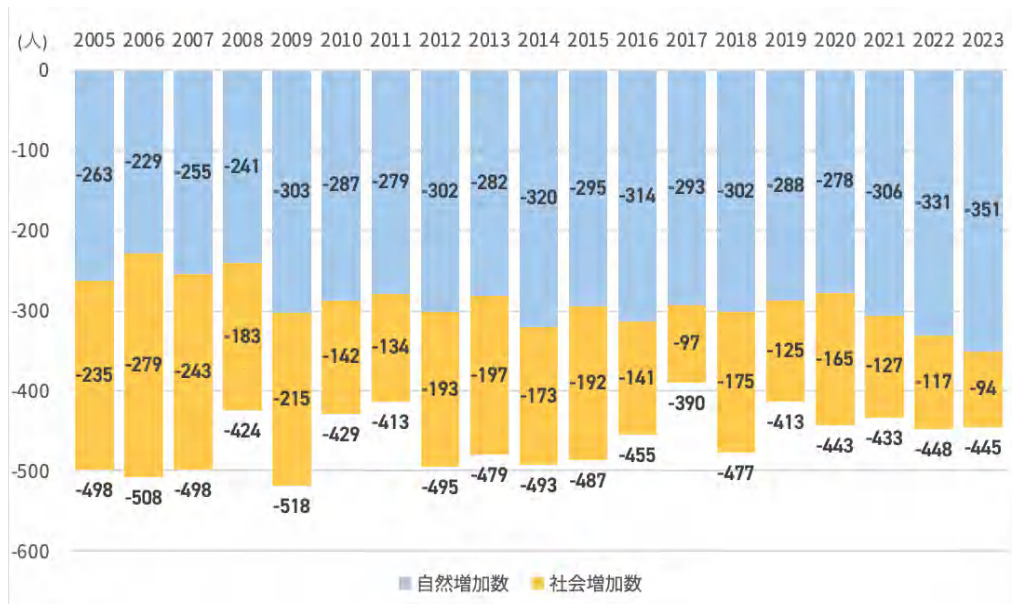
### ③若年層の転出超過が顕著

自然減（死亡者数＞出生者数）と社会減（転出者数＞転入者数）が大きく続いています。

純移動（転入・転出）の状況を見ると、特に10代後半から20代前半の世代で転出が顕著となっており、高校・大学への進学や就職がきっかけと考えられます。

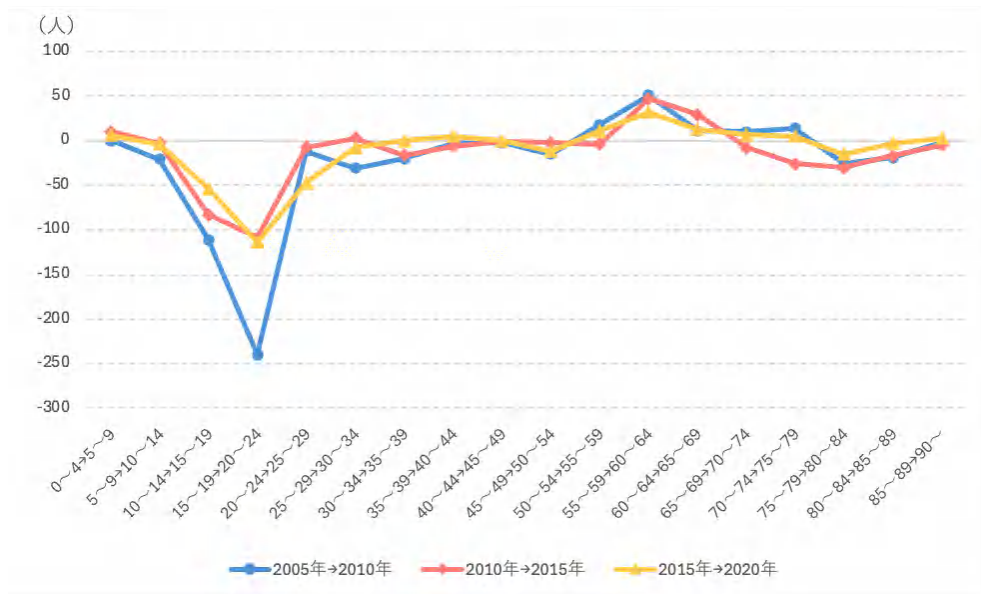
若年層の減少や転出を抑制するためには、安心して子どもを産み育てることができる子育て環境の更なる充実を図るとともに、特色ある学校教育を充実させ、こどもの頃から地元能登の良さや、町内企業について知る機会を設けるほか、それぞれのライフステージに応じた地元定着やUIターン促進に向けた取組を進める必要があります。

図表 自然増減・社会増減の推移

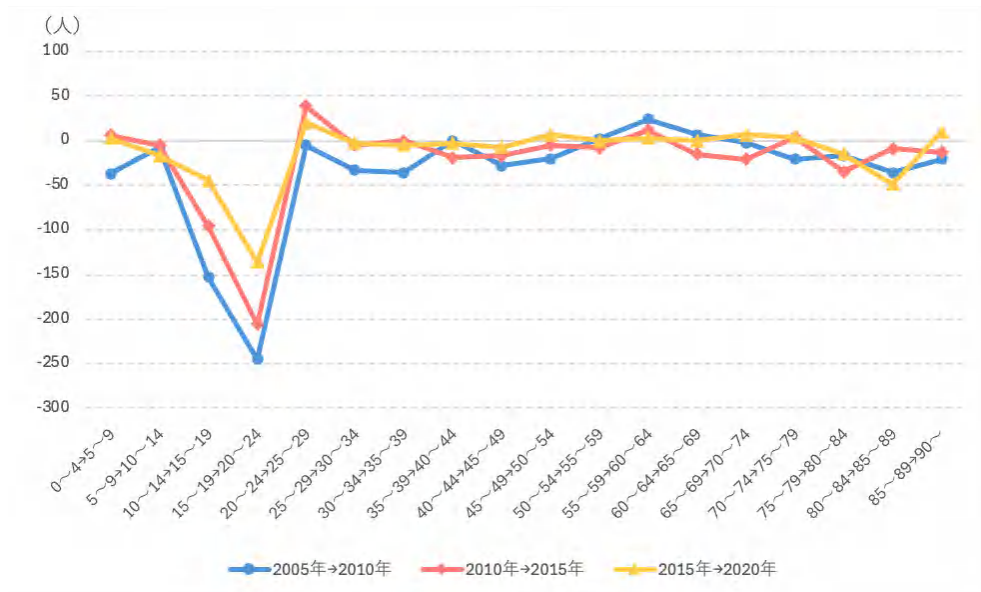


資料：能登町住民基本台帳

図表 年齢5階級別の純移動数（男性）



図表 年齢5階級別の純移動数（女性）



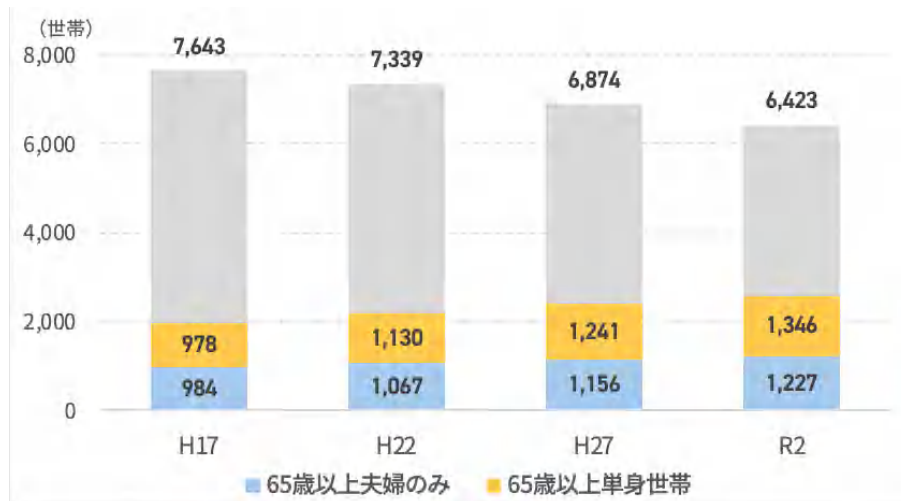
#### ④高齢者世帯が増加

近年、65歳以上の高齢者単身世帯、高齢者夫婦のみの世帯が増加傾向にあり、その中でも特に高齢者単身世帯が増加しています。また、能登町の健康寿命（平均自立期間）は、男性で79.3歳、女性で83.1歳と生涯活躍する高齢者が増えている状況となっています。

高齢化の進行は、年金や医療、介護等の社会保障費の増大、担い手の高齢化や人材不足の深刻化など様々な影響を及ぼしています。

そのため、元気な高齢者が地域コミュニティを支える一員として生きがいを感じながら活躍できる環境づくりを進める必要があります。

図表 65歳以上単身世帯、夫婦のみ世帯数



図表 令和3年度平均寿命と健康寿命（平均自立期間）

	区分	男性	女性
平均寿命（歳）	能登町	79.6	86.8
	石川県	81.1	87.3
平均自立期間（年） （要介護2～5を除いた期間）	能登町	79.3	83.1
	石川県	80.3	84.4
支援や介護に必要となる期間 （年）	能登町	0.3	3.7
	石川県	0.8	2.9

資料：第2次 能登町健康づくり計画

※ここでの健康寿命とは、国が示す健康寿命の代替として、石川県では補完的指標として算出しています。国が公表している実際の健康寿命とは算出方法が異なり、また、人口規模の小さい市町では精度が十分とはいえないため、参考としての数値です。

## ⑤事業者ヒアリング

分野	意見概要
金融	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの事業所が再開に漕ぎ着けたものの、部分再開から全面再開への移行、そして外部からの収益獲得が喫緊の課題である。</li> <li>・能登町の復興推進委員会や総合計画策定の場に積極的に参加し、金融・経済面から後押しできることをしていきたい。</li> </ul>
商工業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの商工事業者が、後継者がいない状況で、高齢化を理由に廃業を考えているという現状がある。これを自然な流れとして捉えつつ、新たな起業家を移住者などから集めていく必要がある。</li> <li>・全く縁のない人が地域に来て事業を始めるのは難しいため、情報発信が重要。</li> </ul>
観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>・能登町として観光だけではなく、産業を維持できる状態にしていきたい。</li> <li>・「安心・安全に暮らせる町」だけではなく、「若い世代が残れる町」であるべき。そのためにはどういう町になるのかという明確なビジョンとスピード感のある意思決定・行動が不可欠。</li> </ul>
子育て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シングルの人たちに対する支援が薄い。</li> <li>・自分の知っている地域で子育てできた方がいいぞ、能登町に来たら子育てしやすい、という町になれば、能登町出身でなくても移住したい人が来ると思う。</li> <li>・子どもにお金を使っている町、というのを打ち出していくのが必要なのではないか。</li> </ul>
教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学と高校の教員間の交流がないことや、町立と県立で教育委員会の管轄が異なるなど、小中高の連携が分断してしまっている。</li> <li>・町内唯一の高校であり、町に住む子どもたちが通うからこそ、町がもっと高校に踏み込むような計画が必要。</li> </ul>
福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の医療や福祉は地域包括ケアシステムに委ねられているが、これは「互助・共助の仕組み」がないと成り立たない仕組みであり、働き盛りの世代が都市部に流出している今、地方の基盤は脆弱化している。</li> <li>・若い世代が戻る、あるいは定着するためには、仕事や学校、医療、福祉等の生活基盤がしっかり整っていることが必要。</li> </ul>
町内会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・震災後、特に若い世代の住民が金沢や県外に出て行ってしまった。多くの家で後継ぎがない状況であり、集落として存続できるか心配。(能都)</li> <li>・人手不足により農作業が困難になりつつある。農地が遊休化しているため、農業に興味のある人にとっては、安く土地を借りて始めるチャンスはあると思う。(柳田)</li> </ul>

分野	意見概要
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くは高齢者世帯であるため、地域を維持するのは困難だと思う。そうならないためには、若者が戻ってきて働けるような仕事や産業を創出し、安定した暮らしを提供できることが重要。(内浦)</li> </ul>
<b>移住定住</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・能登は集落感がないと持続的なことは考えられない。震災前後で課題は同じだけれども、時間軸が全部前倒しになって目の前に来てしまった。でもまずは集落復興が最優先。</li> <li>・どうするのか、という話し合いすらできてないが、もうできるところから進めていかないと、集落が静かになっていってしまう。</li> </ul>

### ⑥町民ワークショップ

町民ワークショップは全4回開催し、10代～80代までの幅広い方々にご参加いただき、能登町の「これまで」と「これから」について検討を行いました。

能登ならではの交流の場所をつくる「交流」、外部からの変化を柔軟に受け入れ安全、安心な暮らしを守る「暮らし」、地域の台所を増やす「なりわい」、22世紀を生き抜く人づくりの観点からご意見をいただきました。



### ⑦中学生ワークショップ

2025年9月下旬から10月上旬にかけて、能都中学校・柳田中学校・松波中学校の3校で全2回のワークショップを実施しました。他地域のまちづくり事例を学び、町の「困りごと」や「好きなところ」を共有し、そこから未来の能登町を描く「みらい

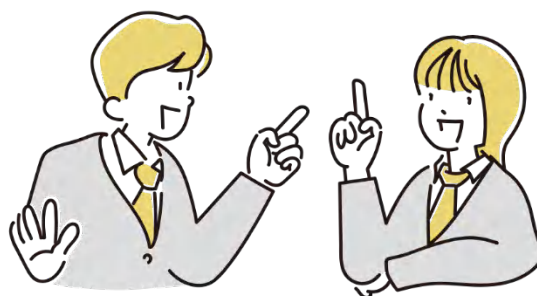
スケッチ」を作成しました。生徒たちからは人が集まれる場所を求める声が多く、また町内外問わず交流ができるような場所やイベントを提案していました。

中学校	意見概要
<p><b>能登中学校</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家を使って能登の美味しいをひとつにまとめたカフェをつくる！</li> <li>・町全体を歩行者天国にして特産品を使った屋台をたくさん出す！</li> <li>・海水浴場の近くで、能登自慢の海を見ながら、能登名物を食べて遊べるようにキッチンカーを出す！</li> <li>・空き地などを利用して、能登に住んでいる人みんなが好きな絵を描いてアートの壁を作りたい！作った場所を休憩所にする！</li> </ul>
<p><b>柳田中学校</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと集まって話したり勉強できる喫茶店がほしい！</li> <li>・使われなくなった商店街を祭りの会場として使って賑わいを戻す！</li> <li>・能登町の自然が多い特徴を活かして、森の中にある飲食店を建てる！</li> <li>・奥能登の中心である能登町に、珠洲市・輪島市・穴水町の総合観光案内所ができればいいと思う！</li> </ul>
<p><b>松波中学校</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・赤崎海岸で春夏秋冬楽しめる場所を作る！春にしか観光客が来ないのはもったいない！</li> <li>・能登の自然と食を満喫できるグランピング施設を作る！</li> <li>・空き地をお花畑にしたり、田んぼを公園にして外で遊べる場所を作る！</li> <li>・小さい子ども学生も大人も高齢者も地域の人全員が集まれる場所が欲しい。全ての年齢の人が楽しく住める町になってほしい！</li> </ul>

## ⑧高校生ヒアリング

高校生が感じる町の魅力・課題・将来の関わり方を把握し、町の将来像の検討に反映するため、県立能登高等学校でグループヒアリングを実施しました。生徒たちからは、日常の不便さを感じながらも、町への強い愛着がうかがえました。特に祭りに対する思いは深く、生徒たちにとって帰省や再訪の大きな動機となっていることが示される一方で、公共交通や商業、就業環境が十分に整備されなければ、進学後に町へ戻ることは難しいという意見も多く聞かれました。

分野	意見概要
<b>町の魅力</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海や山などの自然環境が好き</li> <li>・地元の祭りは町の「心臓」のようなもので大事</li> <li>・「自分で遊びを作り出せる」環境が面白い</li> <li>・つくモールなど、観光施設がある</li> </ul>
<b>日常生活における不便さ・課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間営業の商業施設やコンビニが少ない</li> <li>・地震後の営業時間短縮による利便性の低下</li> <li>・交通手段が限られており、親に頼らないと遠出ができない</li> <li>・就職先の選択肢が限られている</li> <li>・若者が集まれる場所や遊び場が不足している</li> </ul>
<b>将来の町との関わり方</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・祭りの時には帰省したい</li> <li>・都会で経験を積んだ後に、地元へ戻り都会の人と能登町を繋げる人になりたい</li> <li>・地元の仕事があれば戻りたい</li> </ul>
<b>町に期待すること・改善要望</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間も利用できる商業施設や若者向けの店舗がほしい</li> <li>・祭りに来た人たちのための一時滞在場所がほしい</li> <li>・空き地を活用した遊び場・交流の場の整備</li> <li>・防災力を高める取組（防災教育の充実も評価）</li> <li>・街灯の増設など、夜間の安全確保</li> <li>・能登町への大学キャンパス誘致</li> <li>・若者が働きたいと思える企業・仕事の誘致</li> </ul>



# 第 2 編

---

## 基本構想

—基本構想—わたしたちが目指す能登町—

- 1 能登町の将来像
- 2 将来像の実現に向けて
- 3 土地利用の方針

## 1 能登町の将来像

第3次能登町総合計画において、本町が目指す未来を「能登町の将来像」として次のように定めます。

### ともに生きる、能登で生きる

豊かな里山里海に恵まれ、古くからの文化を伝え育んできた能登町は、自然の恵みと町内各地の多彩な地域コミュニティ（人のつながりや伝統文化）、さらには快適な都市機能を備え、歴史を通じて先人たちが築き上げてきた町です。

しかしながら、人口減少や少子高齢化、さらには能登半島地震と奥能登豪雨といった災害の影響により、「暮らしの循環」のサイクルが徐々に弱まっています。

この「暮らしの循環」を、今後10年、20年の長期的視野で修復・再構築していくためには、本町に住む人々、ならびに本町に興味や愛着を持っていただく人々と、ともに活かし合い、幸せを共有するための持続可能なまちづくりを目指します。

未来にわたり「ふるさとへの誇りと愛情」を持ち、それぞれの方法でまちづくりに参加し、能登町とともに生きていくまちとしての方向性を示す最上位の指針として、新たな総合計画の基本構想を策定します。

#### ▽将来像の実現に向けて

##### （1）能登町誕生から積み上げてきたまちの歴史を継承する

これまで築いてきた、合併後の能登町として一歩前へ踏み出した第1次総合計画、「つなぐ」という言葉をキーワードとして、人、地域、未来をつなぐために、移住定住や人材育成を促進した第2次総合計画、震災から豪雨という度重なる災害からの復興を目指す復興計画を基盤とし、継続性のある施策を推進します。

第1次総合計画（平成18年～平成27年）「ひと・くらしが輝くふれあいのまち」

第2次総合計画（平成28年～令和7年）「人・地域・未来をつなぐ持続可能なまちづくり」

復興計画（令和7年～令和14年）「創造的復興：次世代に希望を持てるまちづくり」

##### （2）復興の指針と復興に向けたメッセージの発信

本町では、二度の大規模災害からの復旧・復興に取り組む必要があります。大規模災害の発生後は、「災害は地域のトレンドを加速させる※」と言われており、本来ならば5年後、10年後に訪れるはずだった人口減や高齢化率の上昇といった地域課題が顕在化しています。

そのため、町民や事業者とともに町内外の様々なパートナーと連携し「創造的復興」を目指したメッセージを発信します。

※首都直下地震特別研究プロジェクト「復興を進める上での6つのポイント」から引用

### **(3) 多様な主体との連携と共創を加速する**

---

町の将来像を実現するには、行政だけでなく町民や町外の人々と協力し、共通の目標としていくことが重要です。そして、復旧や復興に加え、地域の課題解決には、従来から取り組んできた町民協働の枠を超え、町外の人々や団体と積極的に連携し、新たなアイデアを導入しながら地域課題の解決を図ります。

## 2 将来像の実現に向けて

### (1) まちづくりの基本目標

将来像「ともに生きる、能登で生きる」の実現に向け、各分野の基本目標を定め、計画的かつ一体的にまちづくりを目指します。

#### 目標1 人づくり ～ともに学び・ともに支える人づくり～

家庭、学校、こども園、地域が連携協力し、次代を担う子どもたちを健やかに育む環境を整えます。また、生涯学習、スポーツ、文化活動などを通し、地域づくりの人材を育て、住民が生き生きと活躍できる町を目指します。

#### 目標2 自然環境・循環 ～里山里海と共生するまちづくり～

豊かな里山里海の保全と利活用を両立し、地域の歴史、文化を維持・継承します。そして、この豊かな自然を次世代へと継承できる町を目指します。

#### 目標3 暮らし ～安心してともに住み続けられるまちづくり～

美しく安定した住環境を保ちつつ、医療、介護、福祉、交通、ごみ処理、上下水道などの生活インフラを計画的に整備します。また、地域全体で防災や防犯に備える体制を構築し、誰もが「住み続けたい」と感じられる町を目指します。

#### 目標4 なりわい ～挑戦と応援による生業づくり～

里山里海の恵みを活かした農林水産業、畜産業、商工業、観光業など、仕事と雇用、賑わいを創出するとともに、担い手の育成・確保と産業連携を進め、若者をはじめ多様な人材が魅力を感じ、挑戦し続けられる環境を目指します。

#### 目標5 交流・協働 ～地域のつながりによる協働のまちづくり～

「自助・互助・共助・公助」を基本に、個人・地域・行政がそれぞれの役割を果たしながら、相互に補完し合う町を目指します。

#### 目標6 町政運営 ～未来につながる持続可能な町政運営～

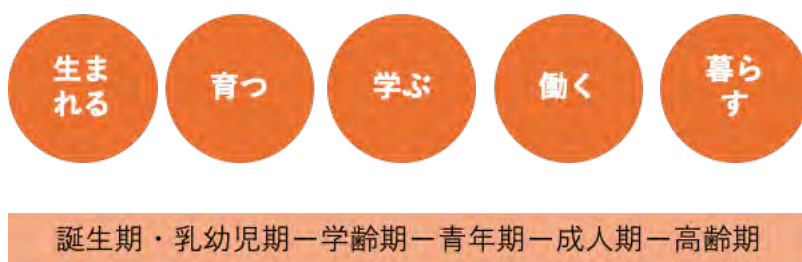
人口減少や少子高齢化、災害からの復旧・復興による厳しい行財政環境を踏まえ、デジタル技術の活用、官民連携、職員の能力開発などにより、効率的で質の高い行政サービスを目指します。

総合計画は、自治体運営における最上位の計画として、将来の目標・ビジョンを定め、実行すべき施策の方向性を総合的に示すものです。その根底には、町民一人ひとりの幸福と暮らしの質を高めるという理念があります。

本計画では「人」に着目し、まちの将来像として「生（活）きる」をキーワードに位置づけます。将来像の実現に向け、基本計画においては、「ライフステージ」の観点と、「つながり」の観点から、施策の取組方針を体系的に整理します。

## ライフステージ

生き方や世代によって求める施策は異なります。町民一人ひとりが、この計画を自分ごととして捉えられるよう、主に能登町に定住する町民を想定し、ライフステージごとに切れ目なく施策を示します。



## つながり

能登町の魅力を内外に発信し、町外の人々や団体と積極的に連携しながら、自然や伝統文化など、能登町特有の豊かさを次代へ継承します。また、町内の地域連携を強めるとともに、他地域との関係人口・交流人口の拡大を図ります。



## (2) 主要指標

計画の実効性を高めるため、各指標の透明化を図り、定期的に評価・公表・改善します。

### ①町民幸福度

能登町に暮らす住民の幸福度・生活満足度を計るウェルビーイング指標を活用し、町民一人ひとりが心豊かな暮らしを実現できるよう取り組みます。

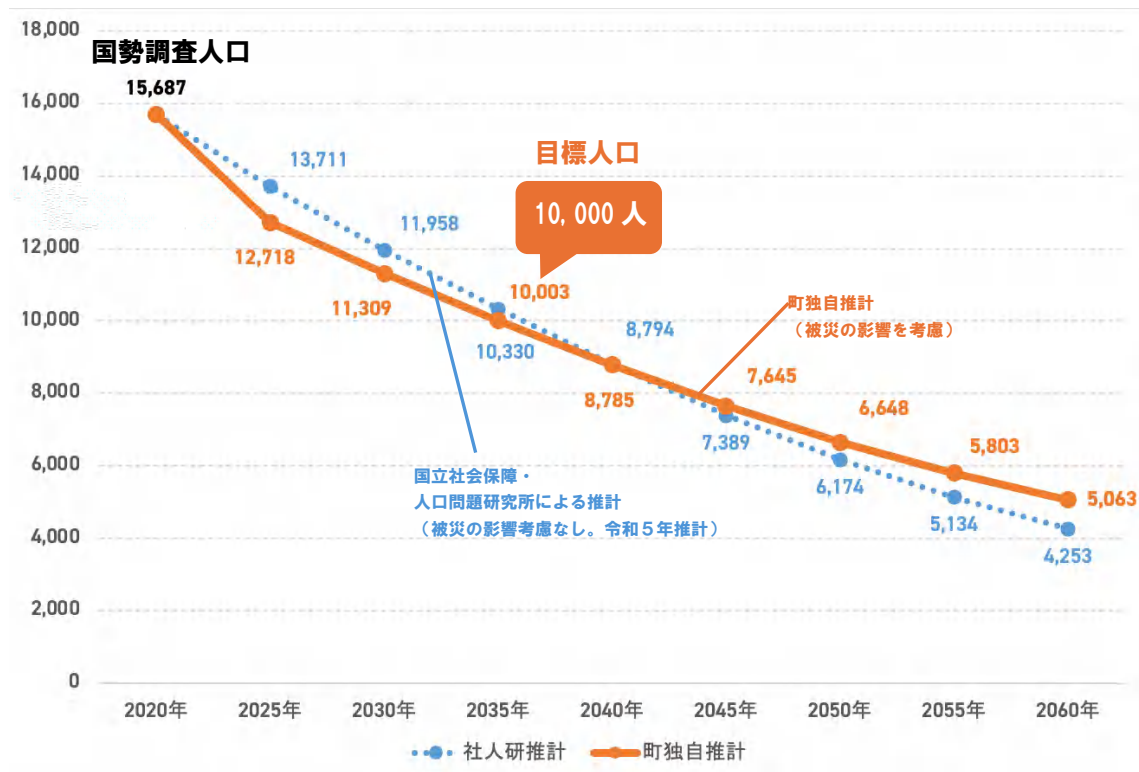
#### 【令和 17 年度 成果指標と目標】

町民幸福度（10 点満点）の主観的評価が、平均 6.7 点以上

## ②目標人口

令和2年（2020年）を基準とした推計では、令和17年（2035年）に約10,330人、令和27年（2045年）に約7,389人となる見込みです。合計特殊出生率の改善、生産年齢人口の流入増加、健康寿命を延伸するための施策などを講じ、令和17年（2035年）に総人口1万人以上を目標とします。

**【令和17年度 成果指標と目標】**  
総人口10,000人以上（国勢調査人口基準）



## ③関係人口

人口減少時代において、持続可能なまちづくりには、本町に暮らす人だけでなく、町外在住で能登町に関わる人の増加が重要です。復旧・復興、各種ボランティア、地域活動への参加率拡大を目指します。

**【令和17年度 成果指標】**  
いしかわのWa! 課題解決プログラムに参加する人数（20pt以上獲得者数）

### 3 土地利用の方針

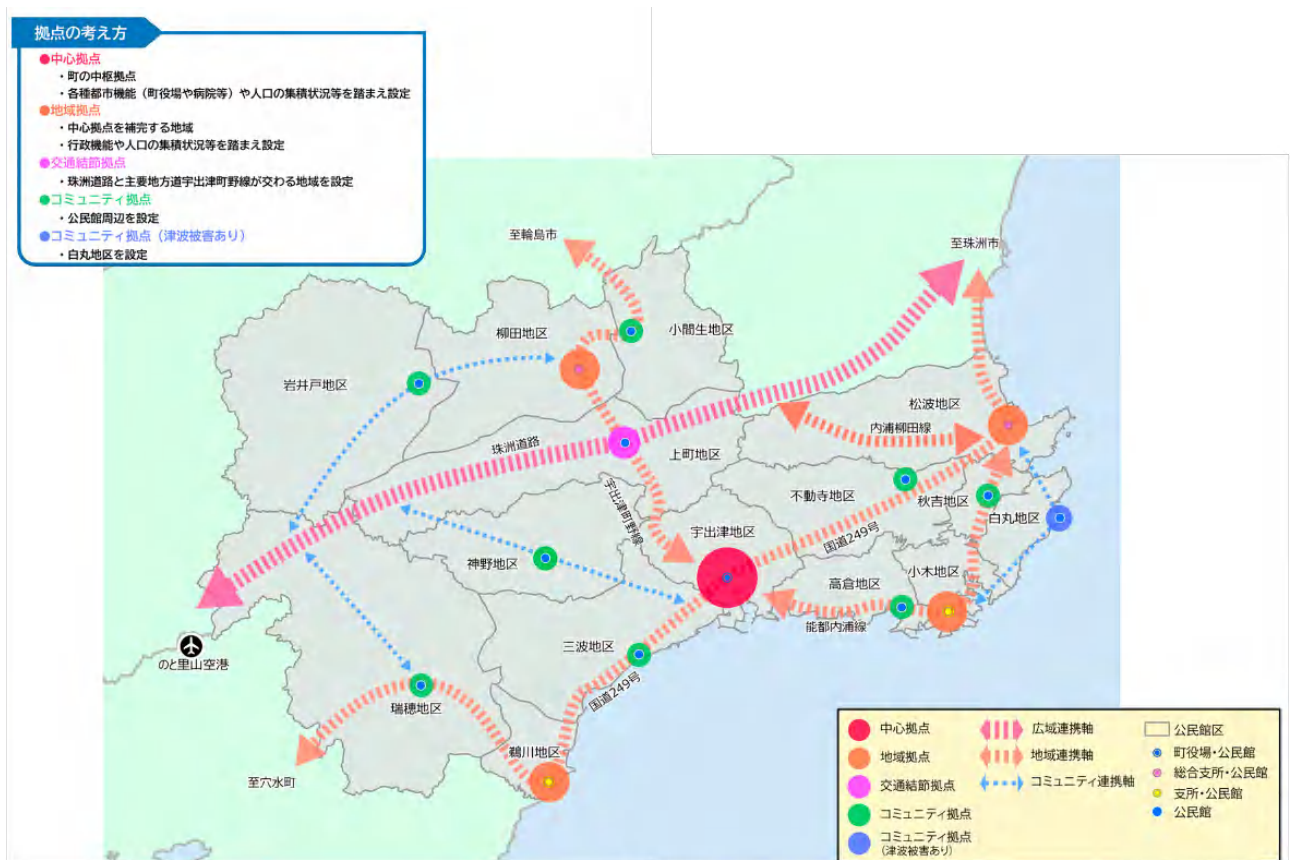
#### (1) 基本的な考え方

海・山の豊かな自然環境と農地を保全しつつ、インフラの長寿命化、災害対策、若者が活気を感じる場の創出により、地域の生活環境を充実させます。北陸新幹線、能登空港、珠洲道路等の広域交通とデジタル技術を活用し、地域内外の交流を促進するとともに、町内の拠点地域が持つ特色ある機能を連携させ、面的な魅力と回遊性を高めます。

ヒト・モノ・コトの循環を交通網・情報網・流通網で支え、地域の特性を活かした良好な生活環境の確保と均衡ある発展を図ります。広域的視点を持ち、自然環境の保全に配慮した、災害に強い計画的な土地利用を推進します。

#### (2) 土地利用の方針

人口減少・少子高齢化、厳しい財政状況のなか地域経済を維持・活性化するため、限られた資源を効率的に活用し、持続可能な「将来のまちの構造」を設定します。国・県、関係機関等と連携し、町民・事業者とともに、機能・役割や連携方策を検討・具現化します。





# 第 3 編

---

## 前 期 基 本 計 画

— 基本構想の実現に向けて —

- 1 基本計画の概要
- 2 施策の体系図
- 3 重点プロジェクト

# 1 基本計画の概要

## (1) 基本計画の役割

基本計画とは、第2編の基本構想で掲げた、町の将来像と6つの基本目標に向けて、29の政策を効果的に推進するため、施策の基本的な方向性を示したものです。

● ページ以降では、具体的な政策と施策をまとめています。政策ごとに、10年後に目指す「2030年の町民の実感」、政策分野ごとの「現状と課題」を整理し、2030年の目標に向けて必要なアクションとして「主な取り組み」を示すとともに、創造的復興に向けて必要な「能登町復興計画」及び「能登町地区別復興まちづくり計画」における「復興に向けて」を示しています。その上で、この実施方針となる「施策」と施策に基づく具体的な取組の「主な事業」を整理し、これらの効果を検証するための「重要指標」を設定しています。また、基本目標ごとに、策定プロセスの中で挙がった「町民の声」を紹介しています。

## (2) 基本計画の期間

基本計画は、基本構想期間10年を前後期に区分して、令和8(2026)年度から令和12(2030)年度までの5年を前期基本計画、令和13(2031)年度から令和17(2035)年度までの5年を後期基本計画とします。

## (3) 基本計画の特徴

基本計画は、基本構想に描かれた将来ビジョンを実現するために、行政分野ごとの目指すまちの姿や行政が重点的に取り組む施策を示した行政運営の計画です。

本計画と同じ令和8(2026)年度にスタートする、「能登町創生総合戦略」(以下「総合戦略」として)と整合性を持たせており、総合戦略の施策は、本計画の重点プロジェクト(戦略的施策)に位置づけています。また、基本計画で示す施策に基づく具体的な事業を取りまとめて策定する「実施計画」のうち、戦略的施策に該当する事業・取組を、総合戦略に基づく具体的な取組とし、より明確で効率的・効果的な事業推進を図ることとします。

## (4) 施策に基づく事業の管理

施策以下の実施事業の詳細については、実施計画書を別冊として毎年度策定し、進捗管理を行います。

## (5) 共通の視点

各基本目標の実現に向け、変化する社会情勢に対応するために必要な考え方を整理し、常に念頭に置くべき5つの視点を「共通の視点」とし、政策の体系を超えて横断的、戦略的に展開することにより、計画の実効性を高め、将来像の実現を目指します。

### ① 創造的復興・地方創生の推進

能登半島地震、奥能登豪雨からの復興に向けた取組の原則として、「能登町復興計画」に掲げた再生と創造に向けた5つの柱を継承し推進するとともに、将来にわたって持続可能で活力あるまちづくりに向けて、人口減少の克服と地域活性化を図る取組を推進します。

### ② インクルージョンの推進

性別や年齢、国籍、障害等の有無などにかかわらず、お互いを認め合い、尊重し、誰もが受け入れられ、活躍することができる地域社会の形成に向けた取組を推進します。

### ③ 国土強靱化の推進

大規模な自然災害があっても、人命、財産、社会システムを守り、「致命的な被害を負わない強さ」と「速やかに回復するしなやかさ」を持つ強靱な地域づくりに向けた取組を推進します。

### ④ SDGsの推進

本町においても、基本構想の具体化にあたっては、SDGsの推進による地球規模での貢献といった視点だけでなく、掲げられているすべての目標が町民の暮らしをより良いものとし、本町で暮らしたい、いつまでも暮らし続けたいと感じられる持続可能な町の実現の手がかりとなる考え方としてとらえ、その実現に向けた取組を推進します。

#### ■ SDGsの17の目標



(資料) 国際連合広報センターHP

### ⑤ DX活用の推進

あらゆるライフステージで幸せを実感できる社会の実現を目指し、デジタル技術を活用することにより、町民生活の利便性の向上及び町政運営の効率化を推進します。

## 2 施策の体系図



## 政 策

1	こどもまんなか支援の充実
2	世界と地域に貢献できる人材の育成
3	学校教育の推進
4	生涯学習活動の推進
5	スポーツ・レクリエーションの充実
6	保健・医療の充実
7	健康長寿社会の実現
8	人にやさしい福祉の推進

1	能登の里山里海の保全
2	地球にやさしい社会の実現
3	地域文化・文化遺産の継承と振興

1	安全安心の都市基盤整備
2	快適な住環境の確保
3	消防・防災の強化
4	防犯・交通安全対策の強化

1	農林水産業の振興
2	商工業の持続・活性化
3	新たな仕事づくりの促進
4	多様な働き方の推進
5	観光まちづくりの推進

1	移住定住の促進
2	共創のまちづくりの推進
3	共生のまちづくりの推進
4	住民自治の推進

1	着実な行政改革の推進
2	強固な行政組織づくりの推進
3	公民連携の推進
4	自治体 DX 化の促進
5	広報広聴活動の充実

## 重点プロジェクト

1

能登の暮らしの循環再興プロジェクト

2

地域まるごと学びの場づくりプロジェクト

3

関係人口の創出プロジェクト

4

行財政基盤強化プロジェクト

### 3 重点プロジェクト／戦略的施策（第3期能登町創生総合戦略）

「第1編 3まちづくりの主要課題」で掲げる本町における課題のうち、概ね10年後の将来的な課題を見据えた際に、特に今後5年間における本町の主要課題としては、下記の事項が挙げられます。

- 地震、豪雨災害により加速度的に進む少子化・高齢化と人口減少への対策
- 里山里海を背景とした「能登の暮らし」の災害からの再興
- 単身世帯の増加による孤独・孤立化や高齢化による互助活動の活力低下等、担い手の確保による地域コミュニティの活性化
- 人口減少を補完するための二地域居住の推進等、関係人口の創出
- 地域内における多様な働き方に対応した就労の場や、暮らしを支え、ライフスタイルを豊かにする場の創出
- 扶助費の増加や復旧復興事業による財政圧迫への対応と財源の確保

本町の特性や「1－（5）共通の視点」で掲げる5つの視点を踏まえ、上記の主要課題の解決を図っていくため、「まちの価値を生み出し創造的復興を実現するための施策」を重点プロジェクト／戦略的施策と位置づけ、デジタル技術も活用しつつ、分野横断的に施策を推進します。

#### 【第3期前期計画における重点プロジェクト／戦略的施策】

##### 1 能登の暮らしの循環再興プロジェクト

##### 2 地域まるごと学びの場づくりプロジェクト

##### 3 関係人口の創出プロジェクト

##### 4 行財政基盤強化プロジェクト

## (1) 能登の暮らしの循環再興プロジェクト

能登半島地震、奥能登豪雨からの復旧復興を可能な限り迅速に推進し、町民の将来の生活に対する不安や悩みを解消することが求められます。そして、「能登の里山里海」に育まれた私たちの暮らしを次世代に引き継ぐことが重要です。

震災・豪雨からの復興に向けた取組の指針となる「能登町復興計画」に掲げた再生と創造に向けた5つの柱を中心に取組を進め、「住宅・店舗等の再建、生活や産業の再生」、「早期復興による人口流出阻止」、「力強い未来を創造」の基本理念の実現を図ります。また、5つの小学校区の個性を活かしたきめ細やかな復興を推進する「地区別復興まちづくり計画」に基づき、町民との協働による「共に創る復興」に取り組めます。

施策の関連項目	プロジェクトの方向性
1-1-1～6-5-2 全施策を横断的に推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○能登町復興計画、地区別復興まちづくり計画の推進</li> <li>○都市計画マスタープラン等に基づく計画的な土地利用の推進</li> <li>○被害や地域の特性に応じた都市基盤整備の推進</li> <li>○生活再建に対する継続的支援</li> <li>○農林水産業の振興</li> <li>○復興を担う人材の育成</li> <li>○公民連携の推進</li> </ul>

### 【数値目標】

項目	現状値	目標値
応急仮設、みなし仮設、在宅被災者数	1,500人	0人
公民館施設災害復旧完了数	2施設	15施設
農地災害復旧状況（査定箇所）	2件	241件
官民連携事業の発足数	0件	5件
地域活性化起業人の活用人数	—	3人

## (2) 地域まるごと学びの場づくりプロジェクト

少子化・人口減少社会に歯止めをかけ、「能登町で子育てをしたい」と実感してもらうためには、こどもや子育て家庭が安心して生活できるよう切れ目なく支援を行うことが必要です。学校・家庭・企業・地域が連携して、学校内だけでは実現できない学びを創出するなど、地域全体で子育てや教育を応援する環境づくりが求められます。

本町では、能登高校において高校と地域が連携・協働しながら能登らしい魅力ある高校づくりを進めていくための「能登高校魅力化プロジェクト」を推進しており、その取組を拡充するとともに、中学校や小学校においても地域との連携によるふるさと教育の充実を図り、世界と地域に貢献できる人材の育成を図ります。

また、復興においては、産業振興や地域づくりにおいて担い手となる人材が不足していることから、担い手の確保を進めるとともに、リスキリングなど生涯にわたって学び続けられる環境づくりを行います。

社会経済情勢の変化が激しい中での、被災からの復興、という難局において、誰一人取り残されず、すべての能登人の可能性を引き出し、より良い未来を築くため、学び続ける人材の育成に取り組みます。

施策の関連項目	プロジェクトの方向性
1-1-2 就学前教育・保育の充実 1-1-3 子育て支援の充実 1-1-4 こどものための居場所づくり 1-2-1 ふるさと能登町に対する誇りと愛着の醸成 1-2-2 グローバル社会に向け、国際的視野を持つ人材の育成 1-3-1 確かな学力、職業実践力の育成 1-3-5 小中学校の連携、高等教育機関との連携の充実 1-3-6 信頼される学校づくりと地域の教育力の向上 1-3-7 能登高校魅力化プロジェクトの充実 3-3-2 減災に向けた計画と整備 3-3-3 災害対応力の強化 4-4-2 雇用対策の充実と職場環境の向上 5-2-1 企業や大学・団体・NPO等の連携強化 5-2-2 学生・生徒が参画するまちづくりの推進	○幼児教育から学校教育の充実 ○子育て支援の充実 ○小中高校における学校の魅力化の推進 ○学力向上と探究的な学びの推進 ○開かれた学校運営の推進とデュアルスクールの検討 ○リスキリングなど、いつでも学び直しができる環境の整備 ○産業や復興まちづくりを担う人材の確保、育成 ○防災人材の育成と災害対応力の強化 ○能登を舞台とした地域貢献活動、教育研究活動の促進 ○大学等との連携による地域交流・連携の促進

**【数値目標】**

項目	現状値	目標値
学校施設災害復旧完了数	3 施設	8 施設
中学3年生の町に愛着を感じる割合	93.7%	93.7%
町内中学生の能登高校への進学率	56.8%	60.0%
公民館利用者数	80,000人	80,000人
すこやかあかちゃんお祝い金給付件数	30件	30件

### (3) 関係人口の創出プロジェクト

能登半島地震・奥能登豪雨による被災によって、人口減少の更なる加速が懸念されている本町では、被災からの復旧復興、そしてその先にある創造的復興及び地方創生に向けて、地域活力を維持、向上させていく必要があります。このためには、従来の定住人口の拡大や観光誘客といった基本的施策に加え、「復興のプロセスを共有し、共に未来をつくるパートナー（関係人口）」を創出・拡大していくことが重要です。

この実現に向け、能登町定住促進協議会を中心として行ってきた、移住定住や関係人口創出に向けたワンストップ窓口機能に、町外からの人材と投資を呼び込み、町内につなぐコーディネート機能の強化を図り、都市部への積極的な情報発信や PR、二地域居住の推進、地域課題とのマッチングなどに取り組みます。

本町には、世界農業遺産にも認定された豊かな里山里海環境を背景に、勇壮な「あばれ祭り」や発酵食など、多様かつ独自の文化が数多く残されています。この文化の独自性を生かした関係人口創出・拡大に取り組みます。

施策の関連項目	プロジェクトの方向性
1-3-7 能登高校魅力化プロジェクトの充実 3-2-7 公園・広場等の維持管理 4-5-2 観光施設の適切な管理 4-5-4 観光資源のブランディング・情報発信 5-1-1 移住・定住の推進 5-1-2 二地域居住など関係人口の創出・拡大 5-2-1 企業や大学・団体・NPO等の連携強化 5-4-3 祭りの伝統継承と革新	○地域資源を活用した関係人口拡大と情報発信の推進 ○町内外とつなぐコーディネート団体（中間支援組織）の設置 ○二地域居住やワーケーション、サテライトオフィス誘致の推進 ○地域課題と外部人材のマッチング支援

#### 【数値目標】

項目	現状値	目標値
Uターン希望者等への相談窓口対応件数	51件	113件
年間観光入り込み客数	386,751人	900,000人
祭りの実施団体数	30団体	75団体
ふるさと能登町応援寄附金	743,169千円	500,000千円
企業版ふるさと納税の寄附額 (震災復興分を除く)	1,400千円	5,000千円

#### (4) 行財政基盤強化プロジェクト

本町は、税収が減少傾向であるのに対し、高齢化の進展による扶助費等の義務的経費の増加や復旧復興事業による事務事業の増加等によって、更なる財政圧迫が予想されま

す。  
本町においては、これまで行政改革等を積極的に実施してきましたが、各分野において事業の合理化・効率化が求められるとともに、公共施設等の被災、老朽化に伴う統廃合・有効活用等が求められます。

今後も復興に向けた取組や町民ニーズの多様化・高度化により、行政需要がさらに増すものと考えられるため、より一層の財政基盤の強化、DX化による効率化を図り、町民との協働により持続可能な町政運営に取り組みます。

施策の関連項目	プロジェクトの方向性
5-2-1 企業や大学・団体・NPO等の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地区の特性に応じた協働のまちづくりの推進</li> <li>○公民連携の推進</li> <li>○行政改革の積極的な推進</li> <li>○町民の声を活かした予算執行の検討（参加型予算の検討）</li> <li>○職員の適性・志向を重視した能力開発</li> <li>○医療や教育分野等におけるDXの推進</li> </ul>
5-4-2 地域コミュニティの充実	
6-1-1 計画的な行政運営	
6-1-2 健全な財政運営	
6-1-3 行政サービス等の向上	
6-2-1 柔軟な組織体制の構築と職員の人材育成	
6-3-1 公共施設等マネジメントの推進	
6-3-2 公民連携体制の構築	
6-4-1 自治体DXの推進	
6-4-2 地域社会DXの推進	

#### 【数値目標】

項目	現状値	目標値
町債残高（一般会計）（単位：千円）	49,150,946	46,367,967
職員研修事業   受講人数	36人	253人
公共施設等総合管理計画による総床面積の削減	136,865㎡	124,548㎡
母子オンライン相談事業   相談者数	19件	20件
町ホームページのアクセス件数 （健康・子育て・福祉特設サイト）	1,393件	1,400件

## 人づくり

ともに学び・ともに支える人づくり

## 政策1 こどもまんなか支援の充実



## 2030年の町民の実感

能登町の環境は、こどもにとっても親にとっても、心地いいな。

## 現状と課題

本町における出生数が30人弱と減少する中で、町の未来を担うこどもを中心に据えた政策を実行することが重要です。本町においても核家族化や結婚における価値観の多様化等、こどもを産み育てる環境が変容していることから、育児不安の解消や孤立防止のため、妊娠期から子育て期までの切れ目のない相談支援が必要です。こどもがのびのびと充実した環境で育っていく環境づくりをすることはもちろん、その見守り役となる親の自己実現を支える、子育てしやすい環境づくりの推進を図ります。

## 主な取り組み

子育て環境の充実

保育サービスの充実

児童センターの整備  
・機能の充実

放課後児童クラブの充実

## 復興に向けて

- 人口減少が加速する中で、能登町の未来をつなぐために、安心して妊娠・出産ができる体制と子育てサービスや子育て環境の充実を図ります。
- 地震により、こどもの遊び場が失われてしまった場所もあるため、新たなこどもの居場所づくりを推進します。

## 重要指標(KPI)

指標名	現状値	目標値
すこやかあかちゃんお祝い金給付件数	30件	30件

## 町民の声

- ◆ 若い女性が「ここでこどもを育てたい」と思える町にしてほしい。
- ◆ 医療の心配をすることなく安心して暮らせる町になってほしい。

### 施策

#### 1-1-1 妊娠期から出産・子育て支援の確保・充実

妊娠・出産・子育てに関する不安を解消するために、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない相談・支援体制の充実を図ります。

#### 1-1-2 就学前教育・保育の充実

多様な子育てニーズに対応し、こどもの健やかな成長に資するため、幼児教育・保育の充実を図ります。

#### 1-1-3 子育て支援の充実

安心して子育てができるよう、子育てに係る経済的負担の軽減を図るとともに各種支援制度の充実を図ります。

#### 1-1-4 こどものための居場所づくり

こどもの居場所づくりを進めるとともに、こどもの健やかな成長と保護者の子育てを地域全体で支える環境を整えます。

### 主な事業

事業名	内容	担当課
保育料完全無償化事業	・保育料：国の保育料無償化の対象外となっている0～2歳児クラスの無償化を行う ・給食費：主食及び副食の無償化を行う。	健康福祉課
すこやかあかちゃんお祝い金給付事業	赤ちゃん誕生のお祝い金の給付を行う。	住民課
結婚新生活支援事業	婚姻届が受理された夫婦（双方が39歳以下の世帯）に対し、新生活に要する住居費用を支援する。	住民課
まつなみキッズセンター整備事業	こどもの居場所としての機能を十分に発揮できるように機能強化を図った再整備を行います。	健康福祉課

### 関連する個別計画

▷第1期能登町こども計画（令和7年度～令和11年度）

## 政策2 世界と地域に貢献できる人材の育成

### 2030年の町民の実感

能登町のこどもたちは、ふるさとを誇りに持ち、日本各地、世界で活躍しているね

#### 現状と課題

少子高齢化や人口減少の進行、さらには被災からの復興という大きな課題に直面する中、能登町の未来を切り拓くためには、地域に根差した誇りと愛着をもち、多様な人々と協働しながら、持続可能な地域づくりに主体的に参画できる人材の育成が不可欠です。

本町に受け継がれてきた祭りなどの伝統行事への参画等を通じて、郷土への誇りや将来の地域の担い手としての意識形成が必要です。また、グローバル化の進展が進む社会においては、地域に根ざしながらも、世界に目を向け、「地球規模で考え、地域で行動する」、あるいは、「地域で考え、地球規模で行動する」ことが求められます。

学校教育と社会教育が連携し、探究的な学びや地域課題解決型の学習を推進することで、能登町の復興と発展に貢献できる人材の育成を図ることが必要です。

#### 主な取り組み

##### ふるさと教育の体系的推進

##### 地域と連携した教育活動の充実

##### 地域資源を活用した教育の展開

##### 外国語教育の充実とコミュニケーション能力の向上

##### ICTを活用した国際交流活動の充実

#### 復興に向けて

- 中高生をはじめ若い世代が本町の復興や将来について対話する場、歴史や文化、産業を学ぶ機会をつくり、ふるさとに愛着をもって行動できる次世代リーダーを育成します。
- 小・中学校で学ぶ海洋教育において、課題意識を持って探究する力を養うとともに、本町の豊かな自然環境のすばらしさを実感し、将来にわたって本町を愛する心を育てます。

#### 重要指標(KPI)

指標名	現状値	目標値
能登町が好きな児童生徒	—	90%
地域の伝統行事に参加している児童生徒の割合(小6・中3)	小6: 79% 中3: 86%	90%
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童生徒の割合(小6・中3)	小6: 88% 中3: 87%	90%

## 施 策

### 1-2-1 ふるさと能登町に対する誇りと愛着の醸成

学校・家庭・地域が連携し、発達段階に応じた学びの充実を図りながら、故郷に対する誇りと愛着を醸成し、主体的に地域社会に参画する人材の育成を推進する。

### 1-2-2 グローバル社会に向け、国際的視野を持つ人材の育成

グローバル社会の進展を踏まえ、異文化理解と英語力の向上を図るとともに、郷土や日本文化への理解を深め、自らの考えを主体的に伝える力を育成する。

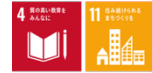
## 主な事業

主な事業	内容	担当課
児童生徒提案型学校生活充実化事業	児童生徒が学校生活の充実化に向けて、必要な提案を行う。	教育委員会事務局
地域・家庭と連携した防災教育の推進	家庭や地域と連携して「防災学習・訓練」を実施する。	教育委員会事務局
海洋教育の推進	地域資源を活かし里山里海の恵みとその保全などについて主体的に考える学習を進める。	教育委員会事務局
英語力向上対策事業	小学1年生～中学3年生までの各発達段階に応じて英語に慣れ親しむ授業づくりを行う。	教育委員会事務局

## 関連する個別計画

▷第3期能登町教育振興計画（令和8年度～令和12年度）

## 政策3 学校教育の推進



### 2030年の町民の実感

教育システムがしっかりしていて、町外に行かなくても充実しているね。

#### 現状と課題

本町で過ごす小中学校の9年間または能登高校の3年間において、確かな学力を育成し、自らが課題発見、解決に主体的に取り組むための教育の推進が求められます。また将来の能登町を担う人材となるよう、郷土愛と誇りを育むための学びの環境づくりを行うことが必要です。

しかし、震災により児童・生徒の学習環境に影響が出ていることから、教育環境を早期に復旧するとともに、心身への配慮が求められます。

また、こどもたちが置かれた環境によらず国際化や情報化に対応した教育を受けられるよう、ICTを活用した教育環境の充実が必要です。

#### 復興に向けて

- 被災した校舎・体育館・グラウンド等の早期復旧により、教育環境の確保を進めます。
- 被災後の児童生徒及び教職員の健康状態への影響に配慮するとともに、専門家による心のケアの充実を図ります。
- 非常時に児童生徒が主体的に判断し、安全に行動できるよう、防災教育の充実を図ります。

#### 主な取り組み

##### 学力向上と探究的な学びの推進

教育DXの推進による学びの質の向上

道徳・人権教育の充実と自身の健康の推進

多様な教育ニーズへの対応

保小・中高接続の充実と高等教育機関との連携

開かれた学校運営の推進とデュアルスクールの検討

学校施設等の復旧、安全で快適な教育の場の提供

県立能登高等学校の魅力化プロジェクト

#### 重要指標(KPI)

指標名	現状値	目標値
中学3年生の町に愛着を感じる割合	93.7%	93.7%
学校施設災害復旧完了数	2施設	7施設
町内中学生の能登高校への進学率	56.8%	60.0%

## 施 策

### 1-3-1 確かな学力、職業実践力の育成

基礎的・基本的な力の確実な定着を基盤に、思考力・判断力・表現力の向上を図るとともに、キャリア教育を充実させ、学びと将来の職業や地域社会を結ぶ教育を推進する。

### 1-3-2 教育DX・GIGAスクール構想の推進による学びの質の向上

教育DXを推進し、一人一台端末の効果的活用を通して個別最適で協働的な学びを充実させるとともに、教員の指導力向上を図り、学びの質の向上を目指す。

### 1-3-3 豊かな心と健やかな体を備えたたくましい人づくりの推進

心身の健康を基盤に、食育や生活習慣の改善、メンタルヘルス支援や命を守る教育を充実させ、家庭・地域と連携しながら、豊かな心と健やかな体を育む取組を推進する。

### 1-3-4 多様な教育ニーズへの対応の推進

児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた支援体制を充実させ、特別支援教育や不登校・外国籍児童生徒への対応を強化するとともに、インクルーシブ教育の推進を図る。

### 1-3-5 小中学校の連携、高等教育機関との連携の充実

小中学校と高等教育機関との系統的な連携体制を構築し、教育課程の円滑な接続を図るとともに、探究学習や進路指導と有機的に結び付けながら、学びの質の向上と進路意識の醸成につながる取組を計画的かつ継続的に推進する。

### 1-3-6 信頼される学校づくりと地域の教育力の向上

コミュニティ・スクールの開設を進め、地域と協働する学校運営を推進するとともに、地域全体でこどもを育てる信頼される学校づくりを進める。

### 1-3-7 能登高校魅力化プロジェクトの充実

能登高校において、能登に学び、能登にかかわり、郷土愛を育む、「能登町らしい」教育の魅力化を推進します。

## 主な事業

主な事業	内容	担当課
学力向上実践研究推進事業	授業公開、研究紀要、研究発表会、研究研修等を通じ、児童生徒の学力向上を図る。	教育委員会事務局
能登高校魅力化事業	「まちなか鳳雛塾」での学習意欲の高揚と学力向上、将来の地域を担う人材の育成を図るとともに、国内留学生を受け入れる。	企画財政課
公立学校施設災害復旧事業	小中学校施設の復旧を行う。	教育委員会事務局
巡回教育・就学相談の実施	発達や学習、行動面などに配慮が必要な幼児・児童生徒について専門家による助言や相談を行い、本人に合った学びの場や支援の在り方を保護者と一緒に考え、伴走支援を図る。	教育委員会事務局

## 関連する個別計画

- ▷第3期能登町教育振興計画（令和8年度～令和12年度）
- ▷第2次能登町食育推進計画（令和2年度～令和9年度）

## 政策4 生涯学習活動の推進



### 2030年の町民の実感

地区ごとの取り組みにいろんな世代の人が参加して、いきいきしているね。

#### 現状と課題

本町は、公民館区を中心に、豊かな里山里海文化を今に受け継いでいます。生涯を通じた学びの機会を提供するため、本町では、町民一人ひとりが生涯にわたり、ライフスタイルに応じて、「いつでも、どこでも、誰でも」自由に学ぶことができる生涯学習社会づくりを推進しています。

また、地域文化の未来を担う人材を育てていくためには、文化教育などにより町への愛着を醸成し、本町を「ふるさと」と感じられる下地をつくることが重要です。本町における地域づくりは公民館が中心となり、さまざまな活動事業が展開されていますが、地域リーダーやボランティアの育成が課題となっています。

#### 主な取り組み

生涯学習活動の充実

地域人材の育成と活用

公民館活動の充実

世代間交流の推進

地域における読書環境の充実

生涯学習・文化施設の  
復旧・機能強化

#### 復興に向けて

- 被災した生涯学習（社会教育）・文化・スポーツ施設を早期に復旧を進めます。
- 東日本大震災の被災自治体では、「まちづくりを担うひとづくり」の取組から住民自らが地域課題の解決に向けて動き出した事例があり、このような知見を活用し地域リーダーの育成など地域づくりを進めます。

#### 重要指標（KPI）

指標名	現状値	目標値
図書館・教養文化館利用者数	35,600人	36,800人
公民館利用者数	80,000人	80,000人
放課後子ども教室への平均参加人数	15人	15人

## 施 策

### 1-4-1 生涯にわたり学び続ける環境づくりの推進

行政・教育機関・企業等と連携し、各種講座や生涯学習振興大会を通じて、多様な学習機会を提供し、生涯にわたり学び続けられる環境づくりを推進する。

### 1-4-2 地域コミュニティの核となる社会教育の振興

町内 15 公民館の特色ある事業を支援し、世代間交流と地域課題解決を促進することで、地域性を生かした学習活動を展開し、地域コミュニティの核となる社会教育を振興する。

### 1-4-3 豊かな心を育む読書活動の推進

図書館の環境整備やリクエスト制度・相互貸借の活用、幼児検診や学校との連携、職員研修や読書ボランティアの育成を通じて、こどもから高齢者まで豊かな心を育む読書習慣の推進を図る。

## 主な事業

主な事業	内容	担当課
公民館活動事業（公民館・地域活性化事業）	各地域の特色を生かし地域の活性化に寄与する公民館活動に対し支援する。	教育委員会事務局
能登町まちづくり出前講座	防災、救命、福祉、健康、スポーツなどの分野で、まちづくり出前講座を開催する。	教育委員会事務局
読書活動の推進	図書資料の充実やサービスの向上、施設管理体制の適正化を図る。	教育委員会事務局
公民館での防災教育活動	各公民館の事情に応じた防災体制を構築する。公民館事業を自己評価する際に、世代間交流や地域コミュニティの維持などへの影響を、防災の観点から見直し、活動の深化につなげる。	教育委員会事務局

## 関連する個別計画

▷第3期能登町教育振興計画（令和8年度～令和12年度）

## 政策5 スポーツ・レクリエーションの充実



### 2030年の町民の実感

ライフスタイルに応じてスポーツなどを楽しんでいる町民が多いね。

#### 現状と課題

スポーツやレクリエーションは、健康づくりの基礎となるとともに、町民同士のコミュニケーションの場でもあります。本町には、スポーツ協会やスポーツ少年団など競技力の向上を目的とした団体や、職場・同好会などで組織された楽しく、健康的に体を動かすことを目的とした団体等がありますが、人口減少の中で、各団体会員の高齢化や脱退、新規会員の減少が進み、弱体化や存続危機といった問題を抱えており、団体の再編による活性化など、対応が求められています。

震災により損壊したスポーツ施設等もあることから、これらを早期に復旧・活用することで、町内外から多くの方を呼び込み、地域の活性化や交流人口の拡大による賑わいづくりを行い、スポーツが盛んな文化を再興していくことが必要です。

#### 主な取り組み

生涯スポーツの推進

地域活性化との連動

体育施設の復旧・機能強化

スポーツイベントの開催

学校教育と連携したスポーツ機会の提供

スポーツ便の運行

#### 復興に向けて

- ソフトテニスなど本町で盛んなスポーツイベントを開催し、地域の活性化や交流人口の拡大、健康増進等を図ります。
- 地域特性や地震・豪雨による被災を契機として生まれた新たなつながりを踏まえたスポーツイベントの開催を検討します。

#### 重要指標(KPI)

指標名	現状値	目標値
スポーツ合宿宿泊数	395 人泊	3,000 人泊
体育施設の利用人数	27,286 人	28,000 人
生涯スポーツ町民大会の実施	0 回	3 回
体育施設災害復旧完了数（新体育館建設含む）	0 施設	8 施設

## 施 策

### 1-5-1 生涯にわたるスポーツ活動・競技スポーツの振興

町民大会や高齢者向けスポーツ、多様な施設活用、全国大会誘致を通じ、幅広い世代の生涯スポーツ活動と競技レベル向上を推進する。

### 1-5-2 スポーツ施設の整備と積極的活用

被災や老朽化が進む町内スポーツ施設を適正化・複合化し、ユニバーサルデザインを導入した再整備を進め、学校施設も活用して積極的にスポーツ機会を提供する。

## 主な事業

主な事業	内容	担当課
町民スポーツイベント	誰でも気軽に参加できるスポーツの町民大会を開催する。	教育委員会事務局
スポーツを通じた交流人口の拡大に向けた取組	テニスの全国大会や国際大会など大規模な大会を継続的に誘致するとともに、マラソンなど町外からも参加者を集められる大型スポーツイベントを開催する。	教育委員会事務局
まちづくり合宿等助成金事業	町内の文化・スポーツ施設を利用した町外の学生団体等に対し助成を行う。	ふるさと振興課

## 関連する個別計画

▷第3期能登町教育振興計画（令和8年度～令和12年度）

## 政策6 保健・医療の充実



### 2030年の町民の実感

地域ぐるみで健康づくりが進んでいるし、安心して適切な医療が受けられるね。

#### 現状と課題

超高齢社会の到来を控え、必要な医療へのアクセスが確保されていることが重要です。町民が必要なときに必要な医療を受けられるよう、被災した医療・福祉施設の早期復旧を進めるとともに、地域の医療施設の連携により、医療体制の強化や医療の情報化・高度化、医師・看護師・薬剤師等の不足の解消等が喫緊の課題となっています。

特に老朽化と被災の影響があった公立宇出津総合病院においては、経営の安定化を図るとともに、施設、設備等の改修や高度医療機器の導入によって医療機能の維持・強化が求められます。

また、救急機能や入院機能、専門外来など、より高度医療を受けることができるよう、広域病院の整備推進の検討や奥能登公立4病院のサテライト化など、県及び周辺市町村と連携した地域医療のあり方の検討が必要です。

#### 主な取り組み

看護師等修学資金  
貸与事業

病院経営支援事業

医療機器整備事業

健診の推進

広域病院の整備推進

奥能登公立4病院の  
サテライト化

#### 復興に向けて

- 被災した医療・福祉施設について、公共施設の再編とも整合性を図りつつ、早期の復旧を推進します。
- 出張健康相談事業の充実やWeb健診予約システム（24時間予約受付）の導入等により利便性を向上させます。

#### 重要指標（KPI）

指標名	現状値	目標値
公立宇出津総合病院で受けられる診療科目数	17科目	17科目
集団健診予約のWeb利用率	22%	27%

## 施 策

### 1-6-1 医療機能の維持・充実

地域における医療機能の維持・充実を図るため、公立宇出津総合病院への支援を行います。また、県及び奥能登2市2町と連携した広域病院の整備などを検討します。

### 1-6-2 健康増進・医療へのアクセス確保のための支援

全ての町民が平等に医療にアクセスできるよう、医療機器の整備を図るとともに、ICT等システムの導入を進めます。

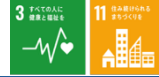
## 主な事業

事業名	内容	担当課
病院経営安定補助事業	地域の中核医療機関である公立宇出津総合病院に対し経営支援を行う。	公立宇出津総合病院
医療機器整備事業	医療機器の更新・新規導入やICTシステムの整備を行う。	公立宇出津総合病院
オンライン健診予約システム事業	若年層の健診受診率向上を図るため、Web予約システムを推進する。	健康福祉課
奥能登公立4病院機能強化の推進	石川県及び奥能登2市2町と連携した広域病院の整備検討を行う。	公立宇出津総合病院

## 関連する個別計画

- ▷第2次能登町健康づくり計画（令和7年度～令和18年度）
- ▷第3期能登町データヘルス計画（令和6年度～令和11年度）  
（第3期能登町国民健康保険保健事業実施計画・第4期特定健康診査等実施計画）
- ▷第2次能登町食育推進計画（令和2年度～令和9年度）

## 政策7 健康長寿社会の実現



### 2030年の町民の実感

疾病・介護予防が進んでいて、いつまでも元気な高齢者が多いな。

#### 現状と課題

生活習慣病の増加は、個人だけではなく家族や医療費増大等、社会的な負担につながるため、生活習慣病の発症予防、重症化予防が重要です。

本町の高齢化率は、令和7年10月1日現在51.8%と、約2人に1人が65歳以上の高齢者となっています。今後、支援を必要とする単身高齢者、高齢者世帯が増加していく中で、高齢者が地域でいきいきと活動するための、相談支援体制の強化やフレイル予防をはじめとした介護予防の取組が必要です。

また、震災により保健・医療・福祉の提供体制に大きな影響があったことから、町民が安心して暮らし続けられるよう、県や奥能登市町、各機関等と連携し、保健・医療・福祉体制の強化が必要です。

#### 主な取り組み

保健・医療  
・福祉体制の強化

疾病予防対策とメンタル  
ヘルスケアの充実

フレイル予防対策の推進

#### 復興に向けて

○被災者の多くは、長期にわたる避難生活や応急仮設住宅での生活を余儀なくされ、生活環境が激変しました。その変化が、心身の健康に様々な影響を及ぼしていることから、被災者の心身の健康状態を迅速かつ適確に把握するとともに、精神的不調や生活習慣病の悪化防止等を図り、被災者の心身ケアを行います。

#### 重要指標(KPI)

指標名	現状値	目標値
65歳以上の要介護・要支援認定者の割合	17.3%	17.3%
血糖異常者所見者の事後指導率（HbA1c6.5以上）	58.7%	増加
通いの場創出数（入浴施設事業所数）	0箇所	1箇所
高齢者の総合相談件数	1,152件	1,000件

## 施 策

### 1-7-1 疾病予防・重症化予防の促進

健康寿命の延伸と健康格差の縮小を目指し、生涯を通じた健康づくりを推進します。

### 1-7-2 こころの健康支援

家庭、学校、職場、地域などにおいて、こころの健康づくりの支援を推進します。

### 1-7-3 フレイル予防対策の推進

身近な場所で健康づくり・フレイル予防に取り組める環境づくりを推進します。

## 主な事業

事業名	内容	担当課
出張健康相談事業	仮設住宅や公民館等に出向いて保健師や栄養士等が健康相談・健康教育等を実施する。	健康福祉課
健康増進事業	住民に対する健康増進事業（健康教育、健康相談、訪問指導、健（検）診）を実施する。	健康福祉課
フレイル予防事業	フレイル予防等のための研修会を開催する。	健康福祉課

## 関連する個別計画

- ▷第10次高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画（令和6年度～令和8年度）
- ▷第2次能登町健康づくり計画（令和7年度～令和18年度）
- ▷第2次能登町食育推進計画（令和2年度～令和9年度）

## 政策8 人にやさしい福祉の推進



### 2030年の町民の実感

地域で支え合い、助け合いながら、いつまでも自分らしく暮らせるな。

#### 現状と課題

地域共生社会の実現に向け、年齢や障害等の有無に関わらず、誰もが役割を持ち、活躍できる場の創出が重要です。

地域福祉については、共助の意識の醸成に努めながら、多様な主体による支え合い活動の充実や福祉施策の推進を図ることにより、安心して暮らせる包括的な支援体制の構築が必要です。

高齢者福祉については、地域や在宅での支え合いや協力による施策を中心に進めてきましたが、住民ニーズでは介護サービスの充実が求められています。また、介護サービス提供事業者の労働力不足も大きな課題となっています。

障害者福祉については、サービスニーズが今後も増加するものと予想されていることから「第7期能登町障害者福祉計画・第3期能登町障害児福祉計画」を踏まえ、現行サービスの充実及び新たなサービスの導入が必要です。

#### 主な取り組み

介護サービス等の給付事業

高齢者福祉サービスの充実

障害福祉サービスの充実

多様な生きがいづくり事業

#### 復興に向けて

○被災者の多くは、長期にわたる避難生活や応急仮設住宅での生活を余儀なくされ、環境が激変しました。生活環境の変化により、心身の健康に様々な影響を及ぼしていることから、疾病予防対策とこころのケアが必要となります。（再掲）

#### 重要指標（KPI）

指標名	現状値	目標値
高齢者交流会の団体数	50 団体	55 団体
老人福祉施設入所措置者数	60 人	60 人
障害福祉サービス費、相談支援給付費、補装具費等の給付数	6,024 件	6,105 件
配食サービス提供数	23,495 人	28,000 人

## 施 策

### 1-8-1 高齢者福祉の推進

ニーズに応じたサービスの充実、メニューの多様化を図るとともに、介護保険制度の安定的な運営に努めます。

### 1-8-2 地域福祉の推進

介護保険制度の対象とならない自立した高齢者のために、在宅での生活支援サービスの提供などを図り、地域ぐるみで自助・共助・公助による福祉の推進を図ります。

### 1-8-3 包括的な福祉の推進

地域でいきいきと自立した生活を継続していくことができるよう、一人一人の障害などの状況に合わせ、障害福祉サービスやその他のサービスのきめ細かな提供、総合的な支援に努めます。

### 1-8-4 福祉施設の運営管理

高齢者に対して、介護支援機能、居住機能及び交流機能を総合的に提供することにより、高齢者が安心して健康で明るい生活を送れるよう支援します。

## 主な事業

事業名	内容	担当課
老人福祉施設入所措置事業	現在置かれている環境では生活が難しく、経済的にも問題がある 65 歳以上の高齢者に対し、養護老人ホームなどへの入所を支援する。	健康福祉課
障害者自立支援事業	障害のある方が、自分らしく、自立した生活を送れるように支援する。	健康福祉課
生活支援ハウス運営事業	高齢などの理由で独立して居宅生活を送ることに不安がある高齢者に対し、安心して生活できる住居を提供する。	健康福祉課

## 関連する個別計画

- ▷第 7 期能登町障害者福祉計画及び第 3 期能登町障害児福祉計画（令和 6 年度～令和 8 年度）
- ▷第 10 次高齢者保健福祉計画・第 9 期介護保険事業計画（令和 6 年度～令和 8 年度）

# 自然環境・循環

## 里山里海と共生するまちづくり

### 政策1 能登の里山里海の保全



#### 2030年の町民の実感

能登の美しい里山里海が誇り。これからも守っていききたいな。

#### 現状と課題

「能登の里山里海」が世界農業遺産に登録されているように、本町及び奥能登地域で営まれている暮らしそれ自体が、私たちの貴重な財産です。いまを生きる町民が、歴史の積み重なった里山里海の価値を認識することに加え、未来の町民にもその環境と暮らしを保全し受け継いでいくことが必要です。

気候変動や各地での大規模災害が頻発している中で、わたしたち一人一人が主体的に身のまわりの環境を美しく保つとともに、ネイチャーポジティブに向けた取組やグリーンインフラの保全など、能登らしい環境保全への取組が大切です。

#### 主な取り組み

トキ放鳥に向けた  
環境整備

能登の里山里海の  
景観保全

自主清掃活動推進事業

町花等を活用した  
景観づくり

#### 復興に向けて

#### 不採算人工林の森林整備

○「能登の里山里海」は能登の暮らしそのものと言われています。先人たちの知恵により培った自然と町並みが共存する唯一無二の景観を作り出している「能登の里山里海」を保全し、次世代に受け継いでいきます。

#### 重要指標(KPI)

指標名	現状値	目標値
トキ生育環境整備事業   取組面積	20ha	30ha
多面的機能支払事業   協定締結農用地面積	1,030ha	910ha
森林経営管理事業	0 ha	147 ha

## 町民の声

- ◆ 地域資源である里山里海を活かしたまちづくりをしてほしい。
- ◆ 祭りをきっかけに町外からの移住や交流を広げてほしい。

## 施策

### 2-1-1 能登の里山里海を織りなす環境の保全

「能登の里山里海」環境を利活用・保全するとともに、農業・農村の有する多面的機能を維持・発揮する活動を支援します。

### 2-1-2 魅力的な里山里海づくりの推進

町民と協働した美しい里山里海の景観づくりやアダプトプログラムなどの保全活動などを行います。

## 主な事業

事業名	内容	担当課
トキ生育環境整備事業	トキの自然状態での安定的な存続を図るため、トキが定着できる環境を確保する。	農林水産課
多面的機能支払事業	農地・農業用水路の機能保全するための支援を行う。	農林水産課
森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業	森林保全と森林資源の有効活用に対し支援する。	農林水産課

## 関連する個別計画

- ▷能登町復興計画（令和6年度～令和14年度）
- ▷能登町地区別復興まちづくり計画（令和7年度～14年度）

## 政策2 地球にやさしい社会の実現



### 2030年の町民の実感

能登町民には、環境にやさしい生活習慣がすっかり馴染んでいるね。

#### 現状と課題

地球温暖化の防止、循環型社会や低炭素社会の構築など、地球環境保全に対する取組は、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて重要です。

豊かな里山里海の自然を有する本町においては、環境にやさしい循環型社会の構築などは欠かせない重要課題であり、新エネルギーの活用検討をしていくとともに、省エネルギーや3Rを積極的に推進していくことが必要です。

また、地震や豪雨等の災害によって発生した災害廃棄物の適正かつ円滑な早期処理を進めるため、国や県と連携・調整し、災害廃棄物の迅速な撤去が必要です。

#### 主な取り組み

ごみの減量化・  
資源化の推進

環境にやさしいまちづくり  
推進事業

地球温暖化対策等の  
積極的な推進

一般廃棄物の適正処理

災害廃棄物の広域処理

#### 復興に向けて

○地震により停電や断水が長期化したことから、集中型エネルギーシステムの脆弱性が顕在化しました。災害時にも一時的にエネルギーの共有化が可能な自立型エネルギーシステム等の導入に向けた検討を進めます。

#### 重要指標(KPI)

指標名	現状値	目標値
一般廃棄物処理量	9,478t	6,790t
温室効果ガスの排出削減	6,217,672kg-CO2 円	5,131,588kg-CO2 円

## 施 策

### 2-2-1 循環型社会の構築

持続可能な社会の実現に向け、新エネルギーの活用推進やCO<sub>2</sub>排出の抑制、ゴミの分別排出、3R活動などを促進します。

### 2-2-2 環境衛生の維持・向上

珠洲市と連携しながら、一般廃棄物処理施設の適切な維持管理に努めます。また、災害ごみの処分を適切に行います。

## 主な事業

事業名	内容	担当課
住宅用太陽光発電システム設置事業	家庭の屋根等への太陽光パネルや蓄電池の設置を補助する。	住民課
分別排出の徹底	ごみの減量化・資源化を図るため、家庭等における分別ルールの周知を行う。	住民課
災害廃棄物対策事業	建物の解体及び災害廃棄物の収集・運搬・処分を行う。	住民課

## 関連する個別計画

- ▷能登町一般廃棄物処理基本計画（平成25年度～令和9年度）
- ▷第4次能登町役場地球温暖化対策実行計画（事務事業編）（令和5年度～令和12年度）

## 政策3 地域文化・文化遺産の継承と振興



### 2030年の町民の実感

地域の文化を大切に守り伝え、お祭りの時期には、みんなが戻ってきて盛り上がっているね。

#### 現状と課題

本町には、日本で初めて世界農業遺産として認定された「能登の里山里海」を背景として、ユネスコ無形文化遺産「奥能登のあえのこと」、「能登のアマメハギ」や、「あばれ祭」をはじめとする日本遺産に認定された「キリコ祭り」等の固有の歴史・伝統・文化があります。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の蔓延や震災に次ぐ豪雨災害により、町民の精神性に関わる祭りや地域文化の根幹を支える寺社は大きな影響を受けました。

この地域文化を回復し、将来の豊かな地域文化の醸成に繋げていくためには、祭りや文化財を基軸とした地域コミュニティの活性化とともに、町民の郷土愛の醸成や、町外への発信を通じた交流人口の創出により、担い手（守り手）の育成が必要です。

#### 主な取り組み

歴史的文化的遺産の  
保存・活用

文化財の保護と  
活用の推進

文化財の復旧

伝統文化・地域活動の継承

#### 復興に向けて

- 暮らしの復興を第一に考えつつ、避難先での生活や仮設住宅等の暮らしに元気や生きがいを与えるためにも、祭りの再建への支援を進めます。
- 神社等は、地域の人々の心の拠り所であるため、被災前の地域の暮らしを再現するにはその再建が必要不可欠です。

#### 重要指標（KPI）

指標名	現状値	目標値
祭りの環 学生サポーター受け入れ人数	9人	30人
指定文化財の復旧率	25%	90%
真脇遺跡縄文館・体験館利用者数	1494人	8000人

## 施 策

### 2-3-1 地域の伝統文化や文化財の保護と活用

町の文化財を保存・整備し、学校教育や生涯学習で活用するとともに、継承支援や広報強化で若年層への理解と地域文化の魅力発信を推進する。

### 2-3-2 多世代の交流による地域の持続

歴史・文化・自然資源と伝統文化を活用し、公民館や文化団体と連携して多世代交流を促進し、地域活性化と持続可能な継承を図る。

## 主な事業

主な事業	内容	担当課
真脇遺跡整備事業	真脇遺跡の発掘調査や出土遺物の整理等を行う。	教育委員会事務局
地域の祭り再開支援事業	能登のふるさと文化の継承や、地域コミュニティの再建につなげるため、被災した地域の祭りの再開を支援する。	教育委員会事務局
地域コミュニティ施設等 再建支援事業	被災した地区所有の神社等の再建を助成し地区の負担を軽減することで、地域コミュニティの存続を図る。	総務課
被災文化財等の復旧	被災した民間所有の文化財の復旧を支援する。	教育委員会事務局

## 関連する個別計画

▷第3期能登町教育振興計画（令和8年度～令和12年度）

## 暮らし

安心してともに住み続けられるまちづくり

## 政策1 安全安心の都市基盤整備



## 2030年の町民の実感

町の被災の傷口が癒え、安心して生活・移動できるようになったね。

## 現状と課題

人口減少が進行する中、5つの小学校区において個性や特徴が分かれるという本町の都市構造の特徴を生かしながら、地区別の被災状況等を考慮しつつ持続可能なまちづくりをいかに進めるかが重要です。

災害により、道路、港湾、河川、公共施設等といった都市インフラ・ライフラインが損傷しました。現在も早期復旧に向けて整備を進めていますが、今後の地震や気候変動に起因する災害の頻発化・激甚化の状況を考慮して、都市基盤の強靭化を図ることが必要です。

応急仮設住宅に入居するなど不自由な生活を余儀なくされている方が多くいるため、迅速に災害公営住宅の整備を進めるとともに、住宅の耐震化を進めるなど、安心して暮らすことができる住まいづくりが必要です。また、生活の足を支える公共交通サービスの維持・向上を図り、効率的で利便性の高い公共交通のあり方の検討が求められます。

## 主な取り組み

## 都市計画事業

各種都市施設の復旧・強靭化  
(道路施設・河川施設・急傾斜施設)

安全安心な生活道路の整備

生活環境の早期回復

急傾斜地等の危険箇所の解消

住宅の耐震化、宅地の復旧

住まいの確保

公共交通の復旧

## 復興に向けて

○いち早く生活や生業(なりわい)を再建するためにも、人の移動と物流を支える幹線道路や生活道路の早期復旧を図ります。また、今後の災害に備えて、地域を支える交通ネットワークとして強靭化を図ります。

## 重要指標(KPI)

指標名	現状値	目標値
応急仮設、みなし仮設、在宅被災者	1500人	0人
町道復旧状況	32件	480件
河川復旧状況	0件	13件
災害公営住宅整備状況	—	260戸
予約制乗合タクシーの利用者数(延べ)	5,000人	5,000人

## 町民の声

- ◆ 誰もが安心して暮らせる災害に強い町にしたい。
- ◆ こどもや高齢者の移動手段を確保してほしい。

## 施策

### 3-1-1 都市施設の計画的な整備

宇出津地区、柳田地区、松波地区、小木地区、鶉川地区の特性を活かしながら、地区ごとの機能や居住環境等、計画的な土地の利用を推進します。

### 3-1-2 道路及び橋梁の維持・整備

安全で利便性の高い道路網の管理、整備を促進します。

### 3-1-3 公共土木施設等、生活環境の復旧

震災により損傷した道路施設等インフラの早期復旧と、今後の震災等に備えた強靱化を進めます。

### 3-1-4 安全・安心な生活環境に向けた整備及び強靱化

住宅や公共施設周辺など二次的災害の恐れのある急傾斜地の崩壊対策を推進します。

### 3-1-5 住宅の復旧及び宅地の強靱化

被災した住宅の再建や住宅・宅地の耐震化等を促進し、安心して暮らせる住環境づくりを行います。

### 3-1-6 地域公共交通の充実

町民の生活の移動手段を確保するとともに、利用促進にむけた情報発信や事業者への支援を行います。また、県やのと里山空港利用促進同盟会等と連携し、利用促進を図ります。

### 3-1-7 情報通信基盤の充実

通信・電話等のライフラインの耐震強化や通信環境（県外解消）の強化を、事業者と連携しながら進めます。

## 主な事業

事業名	内容	担当課
住まい再建・民間賃貸入居支援事業	応急的な住まいでの生活を余儀なくされた方に対し、転居の初期費用等を支援する。	復興住宅課
生活路線バス利用促進事業	路線バス事業者に対し、現状の路線網を維持・確保できるよう経営を支援する。	企画財政課
公共土木施設災害復旧事業	被災した町管理道路の安全な通行や河川及び砂防施設を健全な状態に戻すため、早急に復旧を図る。	建設水道課 (建設)
予約制乗合タクシー運行補助事業	デマンドタクシー運行事業者に対し、運行費を支援する。	企画財政課

## 関連する個別計画

- ▷能登町復興計画（令和6年度～令和14年度）
- ▷能登町地区別復興まちづくり計画（令和7年度～14年度）

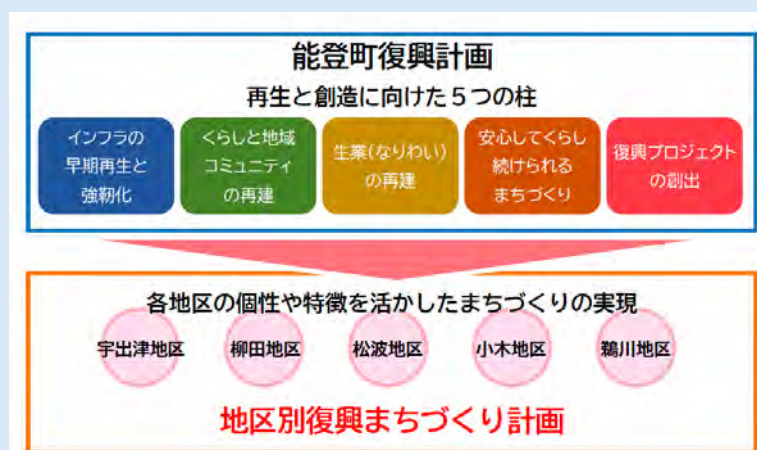
## 地区毎の個性を活かした復興へ「能登町地区別復興まちづくり計画」を策定しました！

能登町では、5つの小学校区において地区毎の特徴や個性を活かした復興を図るために「能登町地区別復興まちづくり計画」を令和7年度に策定しました。

この計画を策定するにあたっては、復興まちづくり協議会（3回）、住民ワークショップ（5地区×1回）、住民懇談会（5地区×1回）を行い、多くの地域住民等のみなさまからご意見をいただき策定しました。

各地区の将来像や重点事業を中心に、次頁から計画の概要をご紹介します！

「能登町地区別復興まちづくり計画」の本編は、能登町ホームページから見る事が出来るので、ぜひご覧ください。



## <宇出津地区復興まちづくり計画>

宇出津地区は、「歴史の鼓動を未来へとつなぐ、集いと賑わいのまち 宇出津」を目指して、本町全体を牽引する中心拠点として、商業・医療・子育て・教育等の生活サービスを維持するとともに、町民及び観光客等の来訪者も含めて多くの人々が集う交流拠点づくりや、豊かな里山里海環境を活かした漁業・農林業・商業の振興により、本町全体の暮らしの充実につながるまちなかの賑わいを創出します。特に重点的・先導的に取り組むべき「重点事業」は下記の通りです。

### 重点事業1 | ノトクロスポートの再建

具店の建物を改装して、能登町で活動する人々が集まる場所として運営されていましたが、震災で建物が被害を受け、その後解体されました。現在、能登町定住促進協議会と能登町が中心となって、新しいノトクロスポートを再建しています。この新しい施設は、震災や豪雨の影響で新たに生まれた外部とのつながりをさらに強め、交流できる場所として活用される予定です。

### 重点事業2 | 空き店舗活用・空き地活用による商店街の賑わいづくり

これまでの人口減少に加えて、震災により飲食店・商店の閉店や空き地が増えたことにより、まちなかの賑わいが失われつつあります。商店街は地域の暮らしを支えるだけでなく、交流の場やまちの顔でもあるため、活気をとり戻し維持する取組が求められています。そのため、民間事業者による空き店舗、空き地活用の支援、誘致を進めます。

### 重点事業3 | 公共交通とシェアリングサービスの相互補完による交通体系づくり

町内では、公共交通として路線バス、住民混乗スクールバス、予約制乗合タクシーが運行されているほか、今後、石川県による奥能登2市2町共通AIオンデマンド交通システムの運行が予定されています。持続可能な交通環境の創出に向け、「能登町地域公共交通計画」に基づく公共交通ネットワークの構築を進めます。また、地域が主体となったライドシェアや、まちなかの移動を支えるシェアモビリティ、交通結節点の整備を検討します。

### 重点事項4 | 能都体育館跡地及び隣接地の活用

能都体育館は、これまで町営施設として町民の様々な活動に利用されてきましたが、震災により甚大な被害を受け、能登町の公共施設の見直しに併せて施設は除却することが見込まれています。保育園や各種学校からも近く、都市公園と隣接しており一体的な利用が期待できるポテンシャルを有していることや、こどもの居場所や運動できる場所のニーズが高いことも踏まえて、体育館跡地の利活用について検討します。

【挿絵または写真を挿入】

## ＜柳田地区復興まちづくり計画＞

柳田地区は、「四季に彩られた暮らしと人のつながりから 新たな価値を生み出す 柳田」を目指して、里山の四季折々の恵みに育まれた生活や文化を日常的に楽しむ暮らしを続けられる地域づくりを進めます。また、厳しくも豊かな自然に培われた地域の絆や、穏やかでしなやかに強い土地柄を活かして、こどもからお年寄りまでが互いに支え合うコミュニティづくりを進めます。特に重点的・先導的に取り組むべき「重点事業」は下記の通りです。

### 重点事業1 | 広域スポーツレクリエーション拠点・防災拠点としての柳田植物公園の機能向上

柳田植物公園を奥能登における広域的なレクリエーション、スポーツ・健康づくりの拠点として、地域による活用がしやすく、賑わいを創出する大規模イベントなども実施できるように機能向上を進めます。また、里山や星空を活かした様々なアクティビティ等についても地域の方々や民間事業者等との連携によるプログラムやサービスの提供を検討します。さらに、震災の経験を活かして、防災拠点として機能向上を進めます。

### 重点事業2 | 温泉資源を活かした地域交流の場

国民宿舎能登やなぎだ荘は、観光客のための宿泊観光施設としてだけでなく、地域の方々の温泉を通じた憩いや宴会等の地域交流の場として親しまれてきました。まずは、通常営業の再開を目指します。また、町の公共宿泊施設の見直しに併せて、将来的には笹ゆり荘との複合化や、民間参入の事業手法も含めて、やなぎだ荘の再生方法を検討します。

### 重点事業3 | 新しい農林業のかたちによる地域づくり

農林業を核としたまちづくりとして、中山間地における農林業の持続可能性を高める新技術の導入や、若者や町外の方も含めて新たな担い手が地域を支える力となる新しい農林業のかたちを検討します。また、奥能登における農林業の学びの場づくりに向けて、地域と大学等の連携による農林業の実習等の可能性について検討を進めます。さらに、里山の資源や文化を活かしたアグリツーリズム・エコツーリズム等の推進により、地域を訪れるファンの獲得を目指します。

## ＜松波地区復興まちづくり計画＞

松波地区は、「内浦の豊かな自然と祭りの心が、世代を超えて“わくわく”を生み出す 松波」を目指して、内浦の里山里海の自然の豊かさや、歴史とともに受け継がれた集落ごとの祭礼文化など、それぞれの地域が持つ個性を活かし、暮らしを楽しみながら住み続けられる地域づくりを目指します。特に重点的・先導的に取り組むべき「重点事業」は下記の通りです。

### 重点事業1 | 松波小学校・まつなみキッズセンター再建による子育てに重点を置いた環境整備

松波のまちなかは生活利便性が高く暮らしやすいと感じられており、さらに松波小学校・まつなみキッズセンター再建をきっかけとして、子育てしやすいまちづくり、こどもの居場所づくりが求められています。再建にあたっては、こども・保護者のそれぞれの視点から求められる機能を検討し、子育てに重点を置いた施設整備及び周辺の環境整備を進めます。

### 重点事業2 | 公民館の建替えや運用変更による多世代の交流の場づくり

公民館の建替えと合わせて、地域が求める機能を実現できるように工夫し、多世代のそれぞれの使い方や交流ができる場づくりを進めます。また、賑わいの創出や交流の促進に向けて、地域の意見を取り入れながら、公民館を上手に使うための周知、必要に応じた運用方法の見直しを行います。

### 重点事業3 | 海辺の資源を活かしたレクリエーション環境整備

恋路海岸や五色ヶ浜の海水浴場や良好な景観を有する海辺の観光資源を活かして、さらに多様なアクティビティを提供できる環境の整備、海辺の地域における民間事業者等によるサービスの提供等によって、交流・関係人口の獲得を目指します。

## <小木地区復興まちづくり計画>

小木地区は、「九十九湾と港町の文化が織りなす唯一無二の暮らしが息づく 小木」を目指して、小木地区は海とのつながりが強い独自の生活・祭礼文化を持つ港町であり、九十九湾に代表される風光明媚な海の風景が地域の誇りです。まちなかでは、商業、医療、行政等の機能を維持しながら、新たなチャレンジも呼び込み暮らしやすいまちづくりを進めます。特に重点的・先導的に取り組むべき「重点事業」は下記の通りです。

### 重点事業1 | 既存施設等の活用による交流拠点・コミュニケーションの場づくり

地域のコミュニティ活動の場や未来を担うこどもたちが遊べる場の不足を解消するため、小木公民館等の既存施設の活用による誰もが利用できる地域住民の交流拠点づくりや、憩い・コミュニケーションの場づくりを検討します。

### 重点事業2 | 能都中学校小木校舎の利活用検討

小木中学校は令和7年4月に能都中学校と統合されましたが、地域住民や多くの関係者にとって愛着のある場であり、地域においては交流の拠点であることから、地域住民の意見を取り入れながら、民間事業者の創意工夫を取り入れた能都中学校小木校舎の利活用方針を検討します。

### 重点事業3 | 九十九湾の景観を活かした観光誘客・賑わいづくり

令和2年に「イカの駅つくモール」が能登半島国定公園内の九十九湾にオープンしました。イカの巨大モニュメント「イカキング」や日本百景にも選ばれている景勝地を堪能できる九十九湾の遊歩道の復旧・再整備による観光誘客や賑わいづくりを検討します。

## <鵜川地区復興まちづくり計画>

鵜川地区は、「里山里海の歴史が息づくまちの誇りを受け継ぎ未来につなぐ 鵜川」を目指して、地震による建物被害でまちなかに空き地が広がり、かつての街並みが失われつつある中で、鵜川の偉人たちを生んだ歴史・文化の誇りを受け継ぐたくましいまちとして、地域で手を取り合いながら新たなまちづくりを進めます。特に重点的・先導的に取り組むべき「重点事業」は下記の通りです。

### 重点事業1 | 公民館等の建替えに合わせた機能複合化、公民館を拠点としたまちづくり

地域の交流拠点として機能してきた鵜川支所・鵜川公民館、瑞穂公民館は老朽化により建替えが予定されていますが、それぞれ復興にあたりコミュニティの中心としての機能強化が求められています。公民館等の建替えにおいては機能の複合化により地域ニーズに対応するとともに、公民館等を拠点として周辺のまちづくりを進めます。

### 重点事業2 | 空き地活用等による地域主体の賑わいづくり

鵜川の空き地については土地所有者の意向に沿いながら、地域活性化のための暫定利用も含めて検討が求められています。民間主導の取組と合わせて、地域主体の空き地活用による地域交流やイベントなど、官民連携による地域活性化・賑わいづくりの取組を進めます。

### 重点事業3 | 里山里海コンテンツの受け入れ環境や大学と連携した地域づくり

里山里海の豊かな自然や文化資源を十分に活かしておらず、人を呼び込む体験コンテンツや受け入れ環境づくりが求められています。地域住民・大学・外部の専門家組織・民間事業者が連携し、農業・漁業体験等のプログラムの提供や農家民宿などの宿泊・活動拠点の確保、ガイド人材の育成により、学びと交流を通じた地域づくりを推進します。

## 政策2 快適な住環境の確保



### 2030年の町民の実感

安全で快適な住環境が整い、住んでみたいという人が増えたね。

#### 現状と課題

地区別復興まちづくり計画や立地適正化計画のまちづくりの方針に基づき、拠点ごとの整備等による都市機能の維持及び居住の誘導を図り、人口減少に対応する計画的な土地利用が求められます。

また、上下水道の計画的な更新及び耐震化や公園等の復旧など、住環境の復旧・整備と、医療や子育て、商業等の日常生活サービスの持続的な提供、住宅再建に関する相談や支援を継続的に行っていくなど、快適な住環境を整備していくことが必要です。

#### 復興に向けて

- 限られた地域資源からできるだけ多くの効果を生み出すには、中心拠点や地域拠点等において、地区ごとの機能や居住環境、土地利用の考え方を整理する必要があります。
- 上下水道の早期復旧を図るとともに、災害に強い上下水道を構築するため、老朽化した施設の改築・更新及び耐震化を進めます。
- 町民の潤いある快適な生活環境を整えるため、被災した公園を復旧するとともに、柳田植物公園において、防災機能の追加整備を検討します。

#### 重要指標（KPI）

指標名	現状値	目標値
空き家売買契約数	15件	15件
空き地売買契約数	0件	5件
被災管路（上水道）の更新延長	0m	7,250m
被災管路（下水道）の更新延長	0m	52,200m

#### 主な取り組み

被災者への  
経済的支援活用促進

きめ細かい情報提供や住宅相談

地区別復興まちづくり  
計画

公共施設の早期復旧

上下水道の早期復旧  
・強靱化

ふるさと空き家・  
空き地活用事業

安全な水道水の  
安定供給

公園等の維持管理

## 施 策

### 3-2-1 被災者の生活再建支援や相談体制の強化

被災者に対する住まいの再建や生活再建支援、専門家等による相談会や戸別訪問など、各種支援制度の情報発信を行うとともに、継続的かつ柔軟な相談体制を構築します。

### 3-2-2 安全・安心な居住環境の整備

復興計画や地区別復興まちづくり計画、都市計画マスタープラン等の策定・推進を通じて、計画的な土地利用及び居住の誘導を行います。

### 3-2-3 公共施設等の復旧・強靱化

被災した保育所等の児童福祉センターや衛生センターなど、生活に欠かすことができない公共施設の復旧や強靱化、維持管理を適切に行います。

### 3-2-4 ライフラインの復旧・強靱化

都市生活の基盤となるライフラインが安定的に提供され続けるよう、上下水道の適切な更新や強靱化などを促進します。

### 3-2-5 空き家・空き地の適正管理の促進

空き家の増加を防ぐため、空き家になる前からの情報共有や適正管理、解体除去及び跡地利用、利活用の促進を図ります。

### 3-2-6 上下水道施設等の維持管理促進

水道施設の耐震化など必要な事業を計画的に推進し、安定した水道供給を図ります。

### 3-2-7 公園・広場等の維持管理

住民の快適な生活環境を確保するため、住民の憩いの場となる都市公園・広場の継続的な維持管理、防災機能の強化を図るとともに、町民ニーズに応じて、町民協働、官民協働による公園・広場の再整備、維持管理体制づくりを推進します。

## 主な事業

事業名	内容	担当課
都市計画マスタープラン策定事業	将来に向けたまちづくりの基本的方針となる都市計画マスタープラン及び立地適正化計画を策定し、推進を図る。	建設水道課 (建設)
空き家・空き地情報管理事業	のと宅地建物取引業組合と連携し、空き家・空き地バンクの運営を行う。	ふるさと振興課
水道施設更新事業	老朽化した水道管等を計画的に更新し、漏水や事故を防ぎながら耐震化を図る。	建設水道課 (上水道)
公園等再整備事業	被災した公園等の再整備を行う。	ふるさと振興課

## 関連する個別計画

- ▷能登町復興計画（令和6年度～令和14年度）
- ▷能登町地区別復興まちづくり計画（令和7年度～14年度）

挿絵もしくは写真

## 政策3 消防・防災の強化



### 2030年の町民の実感

震災の教訓を生かした、災害に強いまちになったね。

#### 現状と課題

地震や豪雨における課題や教訓を今後の災害対応に生かすため、災害対応や防災体制について検証するとともに、近年災害が激甚化・頻発化していることから、教訓を発信していくことが重要です。

また、検証等を踏まえ、地域の防災計画や各種ハザードマップの作成、避難所環境の改善、備蓄計画の見直しなどを行い、防災力を強化していくことが必要です。

#### 復興に向けて

- 「自分たちの地域は自分たちで守る」という強い意識を持ち、日頃から地域で協力して防災活動に取り組めるよう、自主防災組織の結成や活動への支援を行うとともに、自主防災組織のリーダー（防災士）の育成や活動を支援します。
- 地震や豪雨では、消防職員や消防団による献身的な救助・救出活動がありましたが、よりの確に行動できるよう、体制の見直しや活動の充実・強化を図ります。

#### 主な取り組み

地域防災計画や  
ハザードマップの見直し

防災訓練の実施

自主防災組織の育成  
・活動支援

指定避難所等の  
機能強化

防災施設の復旧・整備

消防体制の強化

消防機能の強化

災害の記憶の伝承

#### 重要指標（KPI）

指標名	現状値	目標値
自主防災組織数	58 組織	68 組織
防災士の数	448 人	660 人
備蓄倉庫整備数	0 箇所	1 箇所
消防団員数（団員定数：300人）	267 人	300 人

## 施 業

### 3-3-1 防災の徹底

能登半島地震・奥能登豪雨の教訓を生かし、防災マニュアルやハザードマップなどの防災関連計画の作成・見直しを行います。

### 3-3-2 減災に向けた計画と整備

自主防災組織リーダーや自主防災組織の育成を行い、日常から地域で防災活動に取り組めるよう支援します。

### 3-3-3 災害対応力の強化

各種避難所の備蓄計画の見直しを行うとともに、防災倉庫を整備し、備蓄物資のネットワークを構築します。また、広域での応援・受援体制を構築するため民間事業者等との災害時応援協定の締結を推進します。

### 3-3-4 消防体制の維持及び強化

奥能登広域圏事務組合消防本部と消防団、町の連携により、消防職員・消防団員の確保と機能的配置を図るとともに、訓練等による知識・技術等の向上に努めます。

### 3-3-5 消防機能の強化

多様化する災害に対応するため、消防車両や資機材、消防水利等の整備を計画的に進めます。

### 3-3-6 後世の命を守る災害伝承

震災の記憶を後世に伝承し、災害を教訓としたまちづくりを推進します。

## 主な事業

事業名	内容	担当課
防災関連 各種計画/マニュアル改定業務	検証事業の成果を反映して防災関連計画等を改定し、防災・減災対策を行う。	総務課
自主防災組織育成事業	学校区、町内会等で自主防災組織の結成を促進し、その活動実績に対し支援を行う。	総務課
自主防災組織リーダー育成事業	自主防災組織リーダー（防災士）の育成を推進する。	総務課
能登町備蓄計画推進事業	備蓄倉庫の整備、備蓄品・資機材の見直しを行い、計画的な備蓄と更新を推進する。	総務課

## 関連する個別計画

- ▷能登町復興計画（令和6年度～令和14年度）
- ▷能登町地域防災計画（令和5年8月10日修正）
- ▷能登町備蓄計画

## 政策4 防犯・交通安全対策の強化



### 2030年の町民の実感

交通事故や犯罪のない安全安心なまちだな。

#### 現状と課題

被災によって仮設住宅や町外への避難が継続している町民も多く、震災によって町外への転出も増加していることから、空き地・空き家が増加し、空き巣などの犯罪が懸念されています。

また、高齢者を狙う悪質商法の増加や新たな技術・サービスの登場に伴うトラブル等、消費者被害が多様化・複雑化していることから、迅速な情報提供や相談体制の充実を図ることが必要です。

復旧工事や復興支援などにより、工事車両などの通行も増加しており、交通安全施設の整備や交通危険箇所の改善、地域でのパトロール活動などの推進が重要です。高齢化率の上昇により運転に不安を抱く高齢者もいることから運転免許証自主返納の周知を図ります。

#### 主な取り組み

##### 防犯活動の充実

##### 交通安全対策の強化

#### 復興に向けて

- 町民や行政、ボランティア等が連携し、防犯活動の充実を図ります。
- 復旧していない道路や歩道、交通危険箇所の改善を図るとともに、パトロール活動により交通安全対策の強化を図ります。

#### 重要指標(KPI)

指標名	現状値	目標値
犯罪の発生件数（年間）	39件	0件
事故の発生件数（年間）	11件	0件

## 施 策

### 3-4-1 地域防犯活動の強化

警察や防犯協会など関係機関と連携し、地域住民の協力を得ながら、地域ぐるみの防犯対策を進めます。

### 3-4-2 交通安全対策の促進

警察や交通安全関係団体、家庭、学校・保育所・こども園、地域等と緊密な連絡体制を築き、交通安全教室などを通じた啓発活動や交通安全施設の整備を進めます。

## 主な事業

事業名	内容	担当課
地域防犯灯管理支援事業	地域の負担を軽減するために、地域で管理する防犯灯の電気料を補助する。	総務課
交通安全推進事業	道路交通の危険個所において、安全を確保するために、カーブミラーの設置を推進する。	総務課

## 関連する個別計画

- ▷能登町復興計画（令和6年度～令和14年度）
- ▷能登町地区別復興まちづくり計画（令和7年度～14年度）

## なりわい

## 挑戦と応援による生業（なりわい）づくり

## 政策1 農林水産業の振興



## 2030年の町民の実感

能登町は一次産業が盛んで、生産者もイキイキとしているね。

## 現状と課題

本町では、漁業や農業などの第一次産業が基幹産業となっています。しかし近年は、従事者の高齢化・後継者不足により、廃業や耕作放棄地の増加が懸念されています。

人口減少の影響で需要が低下し農水産物価格が低迷していることから、ICT、IoT、AI等の技術を活用した生産活動の省力化・スマート化のほか、地域の実情に応じて、ほ場の大区画化や大型農業機械の導入等、農業経営の効率化による生産原価の低減、付加価値の高い農水産物の生産やブランド力の向上が必要です。

## 復興に向けて

- 地震による亀裂や豪雨による河川氾濫・土砂災害により、農林水産業の基盤となる土地や関連施設が深刻な打撃を受けたため、早期の復旧と今後の災害に備えた強化を進めます。
- 生産機械や施設の破損により経営環境が悪化する中、事業を持続させるために生産性の向上にむけた支援を行います。

## 重要指標（KPI）

指標名	現状値	目標値
農地・農業用施設災害復旧状況（査定箇所）	8件	716件
認定新規就農者数	1人	3人
漁港施設災害復旧状況	0箇所	130箇所
主食用米作付面積	603.1ha	723.7ha
水産物の漁獲高	2,577,494千円	3,247,632千円

## 主な取り組み

## 農林水産業の再建

## 農林水産業振興に向けた支援

## 食文化（発酵食、地酒等）の魅力発信

## 魅力を生かした特産品開発・ブランディング

## 農林水産業施設の早期復旧（農地・林道・漁港など）

## 農林水産業の基盤の保全・整備

## 町民の声

- ◆ 能登ならではの魅力を活かした稼げる町になってほしい。
- ◆ 多様な働き方やチャレンジする人を応援する町にしたい。

## 施策

### 4-1-1 農林水産業の持続可能性の向上

地域ぐるみで将来の農地利用について話し合い、担い手への農地の集積・集約化や大区画化等を推進します。また、農林水産業の効率化、高品質生産を実現するために ICT 機械の導入支援を行います。

### 4-1-2 農林水産事業者の再建及び担い手確保

被災し生産基盤の立て直しが必要な第一次産業従事者への支援や、新たな担い手の確保を支援します。

### 4-1-3 能登町ブランドの開発とPR

里山里海に育まれた品質の高い農林水産物を活かして6次産業化を図るなど、新たな付加価値を生み出し能登町ブランドの開発とPRを推進します。

### 4-1-4 農林水産施設等の復旧

被災した農林水産業の基盤となる土地や関連施設等の早期復旧と機械・施設等の修理や再取得を支援します。

### 4-1-5 「能登の里山里海」を支える農村の面的再生

地域ぐるみで営農するモデルを支援し、能登の里山里海の風景を再生します。

### 4-1-6 農林水産業施設等の維持管理

農業水利施設のきめ細やかな長寿命化・減災対策を図るほか、河川の流域単位で計画的に森林整備を行い、水源涵養機能の強化、土砂流出・崩壊の防備等を図ります。

### 4-1-7 農林水産業の基盤整備の推進

農林水産事業者が安心して生産活動ができるよう、農地や林道、漁港の基盤整備を行います。

## 主 な 事 業

事業名	内容	担当課
農地・農業用施設災害復旧事業	被災した農地・農業用施設の復旧を図る。	農林水産課
農業インターンシップ事業	都市部の就農希望者に対し、町内農業法人において就農体験を行う。	農林水産課
漁港災害復旧事業	被災した漁港・海岸の復旧を図る。	農林水産課
地域農業マスタープラン事業	地域農業者の話し合いにより、地域農業の課題を整理し、農地の集積・集約化や効率的に活用、保全していくための方針を検討する。	農林水産課
農林水産物振興事業	新商品開発、加工・販売施設の整備など6次産業化に向けた支援を行う。	農林水産課
養殖業活性化促進事業	養殖業活性化に係る施設・設備整備費用の一部を支援する。	農林水産課

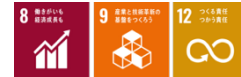
### 関連する個別計画

- ▷能登町復興計画（令和6年度～令和14年度）
- ▷能登町地区別復興まちづくり計画（令和7年度～14年度）

---

挿絵もしくは写真

## 政策2 商工業の持続・活性化



### 2030年の町民の実感

最近は昔からのお店も新しいお店も活気があって、町に賑わいが生まれているね。

#### 現状と課題

本町の商工業は、被災と長引く景気の低迷などにより厳しい経営環境下にあります。一方で、被災後の店舗再開や、新たな店舗出店など、賑わいにつながる動きもみられます。

今後も、消費者ニーズに対応するため ICT 等情報化への支援や、起業・新分野への進出の支援などを通じ、魅力ある商品の生産・販売、サービスの提供を促進する必要があります。

また、経営の安定化や人材不足は、引き続き大きな課題であることから、行政・商工会・金融機関等がこれまで以上に連携を図り、地域経済の拡大を目指すことが重要です。

本町の第一次産業は農業、林業、水産業がそろっており、自然の恵みによる地域資源が豊富にあります。これらの地域資源を活用し、第一次産業から第三次産業に至るまで各産業が連携を密にし、特産品の開発やブランド化、6次産業化などの高付加価値化を推進します。

#### 主な取り組み

事業再開・持続化に向けた支援

商工業の育成

新たな事業の創出

雇用の維持

#### 復興に向けて

- 多くの事業者が被災しており、各種機関と連携した支援体制を構築します。
- 未だに事業再開ができていない事業者もいますが、事業再開の段階から事業の再建、立て直しの段階へ課題が移行しているため、再建の状況に応じた支援を行います。

#### 重要指標(KPI)

指標名	現状値	目標値
商工会会員数	575人	575人
社宅整備事業者数	0件	2件
地域資源活用ビジネス支援事業活用数	2件	4件

## 施 策

### 4-2-1 事業者の持続化支援

商工会などと連携し、町内の既存事業所の再建や設備の近代化、情報化対策、人材育成などへの支援をきめ細かく支援します。

### 4-2-2 地域資源を活かしたイノベーション創出支援

町の様々な産業が連携し、ブルーベリー・イカ・寒ぶり等をはじめとする特産品の開発やブランド化など、地域資源を生かした新たなビジネス創出を支援します。

### 4-2-3 安定した雇用環境の整備

すべての人が安心して働きやすい職場環境の実現に向けて、事業者の取組を支援します。

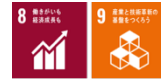
## 主 な 事 業

事業名	内容	担当課
商工振興補助事業	能登町商工会が実施する一部の事業に対し支援する。	ふるさと振興課
社宅整備事業	従業員の社宅を新築する事業者を経費の一部を助成する。	ふるさと振興課
地域資源活用ビジネス支援事業	地域資源を活用するビジネスを支援し、地域産業及び地域の活性化を図る。	ふるさと振興課
能登町なりわい再建支援補助金	施設及び設備等が被災した町内事業者の事業再建を後押しする。県の再建支援補助金に上乗せ支援を行う。	ふるさと振興課

## 関連する個別計画

- ▷能登町復興計画（令和6年度～令和14年度）
- ▷能登町地区別復興まちづくり計画（令和7年度～14年度）

## 政策3 新たな仕事づくりの促進



### 2030年の町民の実感

能登町は、新しいビジネスにチャレンジしやすいところだな。

#### 現状と課題

本町の創造的復興のためには、これを担う人材の活躍が欠かせません。町民や地域活動団体、企業など、地域にかかわる一人一人が地域の担い手として自ら積極的に参画し、活躍できることが重要です。

官民さまざまな立場で、本町を舞台にした新しい価値創造にチャレンジし、起業や新規就農、就業の促進が必要です。

また、人口減少下にあっては、若者、女性、高齢者など多様性に富む活躍を支える仕組づくりが必要になるとともに、移住者や町外からまちづくりにかかわる「関係人口」との協働により、町外の個人や企業などとのネットワークづくりや、連携に向けた取り組みの創出が求められます。

#### 主な取り組み

起業・創業や事業継承に  
向けた支援

新規企業の  
誘致・育成

事業再開・持続化に  
向けた支援

ソーシャルビジネス  
支援事業

#### 復興に向けて

○起業・創業では、新しい事業所の開業やチャレンジショップ等の取組を支援します。また事業継承では、商工会や金融機関とともに、後継者がいない事業者と創業を希望する人を結びつける新たな支援体制を構築します。

○地域経済を活性化していくためには、事業の持続化に加えて、起業・創業や事業継承できる環境を整えていきます。

#### 重要指標(KPI)

指標名	現状値	目標値
起業・創業者（社）数	7件	7件
事業継承希望者数（年間）	0人	15人
町内での新規開業数	5件	5件

## 施 策

### 4-3-1 創業支援、事業承継の推進

商工業の活性化や持続化を図るため、町内の起業・創業者へのサポート体制の充実や、経営の事業承継への支援の充実に取り組めます。

### 4-3-2 企業誘致の促進や人材の誘致

本町の優れた立地、恵まれた自然環境などの優位性を生かし、サテライトオフィスの誘致やテレワーク人材の誘致活動を促進します。

### 4-3-3 ローカルチャレンジの支援

本町で地域課題に挑む人を応援するとともに、新たな挑戦がしやすい環境づくりを行います。

## 主 な 事 業

事業名	内容	担当課
創業・継承支援事業	町内で創業する新規事業者や既存事業の継承者を支援する。	ふるさと振興課
新規産業の創出・産業連携の促進事業	企業立地を推進するとともに、地域資源を生かした先進的で持続可能な事業化の取組を促進する。	ふるさと振興課
国・県等が行う被災地向け事業者支援事業の上乗せ補助	起業や新規取り組みなど、事業者の事業展開を支援する。県の補助金（起業促進補助金、チャレンジ支援補助金等）に上乗せ支援を行う。	ふるさと振興課
ソーシャルビジネス支援事業	地域の課題をビジネスの手法で解決するソーシャルビジネスによる創業を支援する。	ふるさと振興課

## 関連する個別計画

- ▷能登町復興計画（令和6年度～令和14年度）
- ▷能登町地区別復興まちづくり計画（令和7年度～14年度）

## 政策4 多様な働き方の推進



### 2030年の町民の実感

家事・育児をしながらでも働ける選択肢が多くなって、充実しているな。

#### 現状と課題

コロナ禍を契機として、働き方が多様化し、リモートワークなど場所にとらわれない働き方も一般化したことで、介護や子育てなどの家庭の事情に制限されずに働くことや、場所を限らずどこでも働くことが可能になりました。また、働き方改革による職場環境の改善により、誰もが働きやすい環境づくりが求められます。

活動交流拠点「ノト クロスポート」の再建など、町内において多様な働き方が行える環境を整備することで、町内・町外問わず多様な働き方を志向する人材を確保することが必要です。

被災により、町内はあらゆる産業で人手不足となっていることから、複業人材と地域企業のマッチングを図るなど、多様な働き方を促進することが重要です。

#### 主な取り組み

複業人材の  
マッチング支援

リモートワークの推進

就業・雇用に関する  
情報提供

キャリア教育の充実による  
産業人材の育成

ワークライフバランスの  
推進支援

#### 復興に向けて

○事業継続に向けた経営課題の解決には専門家を派遣し、複業人材の活用を推進します。

#### 重要指標(KPI)

指標名	現状値	目標値
ITスキルアップセミナー受講者数	—	30人
シルバー人材センターの会員数	310人	310人

## 施 策

### 4-4-1 多様な働き方ができる雇用環境の整備促進

複業やリモートワークなど、多様な働き方を可能とする環境整備等の支援などを行います。

### 4-4-2 雇用対策の充実と職場環境の向上

若者や女性、高齢者など、働く意欲を持った方が働くことができる雇用・就業機会の確保を図ります。また、雇用のミスマッチを解消するため、職場体験等を通して、職業観の醸成を支援します。

### 4-4-3 働き方改革の推進

誰もが働きやすく、いきいきと活躍するために、多様なキャリアデザインやワークライフバランス等の情報提供と啓発に努めます。

## 主 な 事 業

事業名	内容	担当課
複業人材活用促進事業	地域事業者と複業を希望する人材のマッチングを行う事業	ふるさと振興課
勤労者対策事業	労働者を支援するため、労働に関する各種相談事業を実施するほか、関係機関と連携しながら求人情報等を提供する	ふるさと振興課
キャリアデザイン支援事業	従業員等のキャリアの方向性や能力開発について啓発を行う。	ふるさと振興課
ワークライフバランス周知事業	残業削減や年次有給休暇の取得促進、育児・介護休業制度の利用等について周知を行う。	ふるさと振興課

### 関連する個別計画

- ▷能登町復興計画（令和6年度～令和14年度）
- ▷能登町地区別復興まちづくり計画（令和7年度～14年度）

## 政策5 観光まちづくりの推進



### 2030年の町民の実感

観光資源がより魅力的になり、いろいろなところから人が訪れているね。

#### 現状と課題

本町は、のと里山空港から市街地まで車で30分の立地にあり、観光資源として、日本遺産に認定されたキリコ祭りやブルーベリー・いちごなどの観光農園、真脇遺跡などの歴史遺産などがあります。

しかしながら、被災により民宿などの宿泊施設や観光施設が大きな打撃を受け、再開の目処がたっていないところもあるため、早期再開に向けた支援が必要です。

観光産業は、社会情勢やトレンドの変化に柔軟に対応していく必要があるため、多様なニーズを捉えた観光基盤、受入体制の整備を図ることが重要です。

また、観光資源の掘り起こしや磨き上げ、戦略的な情報発信に取り組み、能登が誇る地域資源を「能登ブランド」として発信していくことが求められます。

#### 主な取り組み

地域観光資源の再生、  
受入体制整備

国内観光客や  
インバウンド等の誘客

地域資源を活用した  
観光誘客

地域観光資源の再生、  
受入体制整備

SNS等を活用した  
情報発信の強化

#### 復興に向けて

- 再開していない宿泊施設や観光施設の早期再開に向けた取組を支援します。
- 観光協会や宿泊業者、交通事業者等の観光関係者との情報共有や連携を強化し、観光客の宿泊や二次交通の確保等の受入体制を再構築します。

#### 重要指標(KPI)

指標名	現状値	目標値
年間観光入込客数	386,751 人	900,000 人
年間観光宿泊者数	2,455 人	3,000 人
つくモールにおける特産品等の販売額	128,531 千円	180,000 千円
道の駅(桜峠)における特産品の販売額	30,000 千円	40,000 千円
観光ポータルサイト閲覧数	209,096 件	400,000 件

## 施 策

### 4-5-1 計画的な観光振興の推進

観光マスタープランに基づき戦略的な観光振興を図ります。

### 4-5-2 観光施設の適切な管理

観光施設の早期復旧を図るとともに、施設の利用促進、適切な維持管理を推進します。

### 4-5-3 滞在型観光の推進

能登の里山里海の恵みを活かして、農林漁業者と宿泊事業者が協働した体験メニューの開発支援など、滞在型観光の推進を図ります。また、宿泊・滞在機能の強化を図るため、ビジネスホテル等宿泊施設の誘致を行います。

### 4-5-4 観光資源のブランディング・情報発信

九十九湾のイカキングを核として、観光遊覧船やイカ漁を活かした観光交流の促進や、旅行会社と連携した新たな観光コンテンツの造成等を行い、SNS や WEB サイトを活かした情報発信を促進します。

## 主 な 事 業

事業名	内容	担当課
観光マスタープラン推進事業	観光マスタープランの推進や改定を行う。	ふるさと振興課
宿泊施設立地助成金	大規模宿泊施設等の整備事業者に対して整備費の一部を支援する。	企画財政課
イカキングによる観光誘客事業	復興のシンボルとしてイカキングを活用し、観光誘客につなげる。	ふるさと振興課
観光振興対策事業	観光情報や祭礼、イベント等の情報発信を行う。	ふるさと振興課

## 関連する個別計画

- ▷能登町復興計画（令和 6 年度～令和 14 年度）
- ▷能登町地区別復興まちづくり計画（令和 7 年度～14 年度）
- ▷能登町観光マスタープラン（平成 30 年度～令和 9 年度）